

令和4年度

自 2022(令和4)年 4月 1日
至 2023(令和5)年 3月 31日

事業報告書

佐賀市水ヶ江三丁目1番25号

学校法人 佐賀龍谷学園

(法人番号 412002)

令和4年度 事業報告書 目次

1 法人の概要	
(1) 建学の精神と学園設立の目的 1
(2) 沿革 1～2
(3) 設置する学校・学科等 2
(4) 施設の所在地 2
(5) その他の施設 2
(6) 学校法人の組織 3
(7) 学生・生徒・園児数の状況(4年度、5年度) 4
(8) 役員概要 5
(9) 評議員概要 6
(10) 教職員概要(4年度、5年度) 6
(11) 系列校(龍谷総合学園)等 7
(12) クラブ活動等の主な成績・実績(4年度) 7
2 事業の概要	
(1) 学園全体に関する事項 8
(2) 短期大学に関する事項 9～13
(3) 高等学校に関する事項 14～16
(4) 中学校に関する事項 17～21
(5) こども園に関する事項 22～24
3 財務の概要	
(1) 財務・決算概要 25～26
(2) 財務の経年比較	
① 貸借対照表 27
② 資金収支計算書 28～29
③ 事業活動収支計算書 30～31
(3) 主な財務比率比較 32
(4) その他	
① 有価証券の状況 33
② 借入金の状況 33
③ 補助金の状況 33
④ 学校債の状況 33
⑤ 寄付金の状況 33
⑥ 収益事業の状況 33
⑦ 関連当事者等との取引の状況 33
4 新聞記事など 34～55

学校法人 佐賀龍谷学園

令和4年度 事業報告書

1 法人の概要

(1) 建学の精神と学園設立の目的

本学園は、浄土真宗本願寺派（本山：京都・西本願寺）が創設した宗派立の学校で、仏教精神、特に浄土真宗の宗祖 親鸞聖人の「み教え」を建学の精神として、今日まで145年の間、変わることなく「こころの教育」を行っています。

学園設立の目的は「教育基本法及び学校教育法に従い、仏教精神により私立学校を設置すること、並びにこれに付属する教育事業を行う」ことです。

すべての人が平等に生かされている生命（いのち）の尊さに目覚め、感謝のうちにお互いが敬愛し合う、心豊かな人格を備え、社会の進展に貢献する強く明るい人間の育成に努めています。

短期大学・高等学校・中学校・幼保連携型認定こども園の4つの学校を設置しています。中学校は令和2年度から中高一貫理数グローバルとして再スタートし、中高一貫の新しい教育が始まりました。

2018(平成30)年度に創立140周年を迎え「創立140周年記念事業」が終了いたしました。現在は「第Ⅰ期 経営改革計画（中期計画）」を遂行中ですが、2024(令和6)年度から「第Ⅱ期経営改革計画」に移ります。2028(令和10)年度に迎える創立150周年を見据えて、地域に根ざした学校作りを目指します。

(2) 沿革

明治11年	佐賀県下真宗寺院の協力により佐賀市願正寺内に「振風教校」を設置
明治33年	「西肥仏教中学校」と改称
明治35年	佐賀市水ヶ江に校舎を移転、「第5仏教中学校」と改称
明治41年	「龍谷中学校」と改称
昭和22年	学制改革により新制龍谷中学校を開設
昭和23年	学制改革により旧制龍谷中学校を龍谷高等学校と改称
昭和26年	財団法人から学校法人佐賀龍谷学園と組織変更
昭和27年	創立50周年 「佐賀龍谷短期大学（仏教科単科）」を開学
昭和29年	短期大学に国文科を増設
昭和30年	龍谷中学校を休校
昭和37年	短期大学に保育科を増設
昭和42年	短大付属幼稚園（慈光幼稚園）を開設
昭和51年	短大付属幼稚園を「龍谷幼稚園」と改称
昭和53年	創立100周年
昭和57年	高等学校に特別進学科を設置
昭和60年	短期大学を鳥栖市村田町に移転し、「九州龍谷短期大学」と名称変更
平成4年	高等学校普通科に文理コースを設置
平成5年	高等学校に仏教コースを設置
平成6年	龍谷中学校を再校
平成9年	高等学校に中高一貫コースを設置
平成14年	短期大学開学50周年を機に、短期大学の改組転換を行う 仏教学科、日本語・日本文化学科を統合し人間コミュニティ学科を開設
平成20年	短期大学人間コミュニティ学科に映像・放送コースを新設 高等学校普通科のコース名を、文理進学コース・普通総合コースに変更 創立130周年記念式典を行う
平成21年	「認定こども園」の認可を受け保育園舎を建設
平成22年	短大付属龍谷保育園を開設
平成24年	高等学校普通総合コースに保育コースを設置
平成26年	「幼保連携型認定こども園」の認可を受け、平成27年度より「九州龍谷短期大学付属龍谷こども園」に名称を変更
平成27年	高校では県内初の人工芝サッカー専用グラウンド建設

東校舎の耐震化に伴う新校舎(4階建て)建設
 平成28年 短期大学が鳥栖市と包括協定を締結
 平成30年 学園創立140周年記念式典を行う
 「第1期 経営改革計画(中期計画)」開始
 令和2年 中学校が「龍谷中高一貫理数グローバル」として再スタート
 令和3年 高等学校に紫恩寮(第2寮)を設置

(3)設置する学校・学科等

寄附行為第4条に基づき次の学校を設置しています。
 現在、休校中の学校、募集停止中の学科等はありません。

設置する学校	設置認可年月	学科・コース等	摘要
九州龍谷短期大学	昭和27年3月	人間コミュニティ学科 ①仏教コース ②司書・心理コース ③メディアコース 保育学科	司書・心理コースは 令和5年度からデータ サイエンスコースに 名称変更
龍谷高等学校	昭和23年4月	全日制(普通科) ①普通科 総合コース 保育コース 文理進学コース 特別進学コース	
龍谷中学校	昭和22年4月	中高一貫理数グローバル	昭和30年休校 平成6年再校
九州龍谷短期大学付属 龍谷こども園	平成27年3月	①幼稚園部 ②保育園部	昭和42年4月 幼稚園設置 平成22年3月 保育園設置

(4)所在地

① 水ヶ江キャンパス

〒840-0054 佐賀県佐賀市水ヶ江3-1-25
 ○ 法人本部 Tel (代表) 0952-24-2645
 ○ 龍谷高等学校・龍谷中学校 Tel (代表) 0952-24-2244
 ○ 龍谷こども園 〒840-0054 佐賀県佐賀市水ヶ江3-5-20
 Tel (代表) 0952-29-8411

② 鳥栖キャンパス

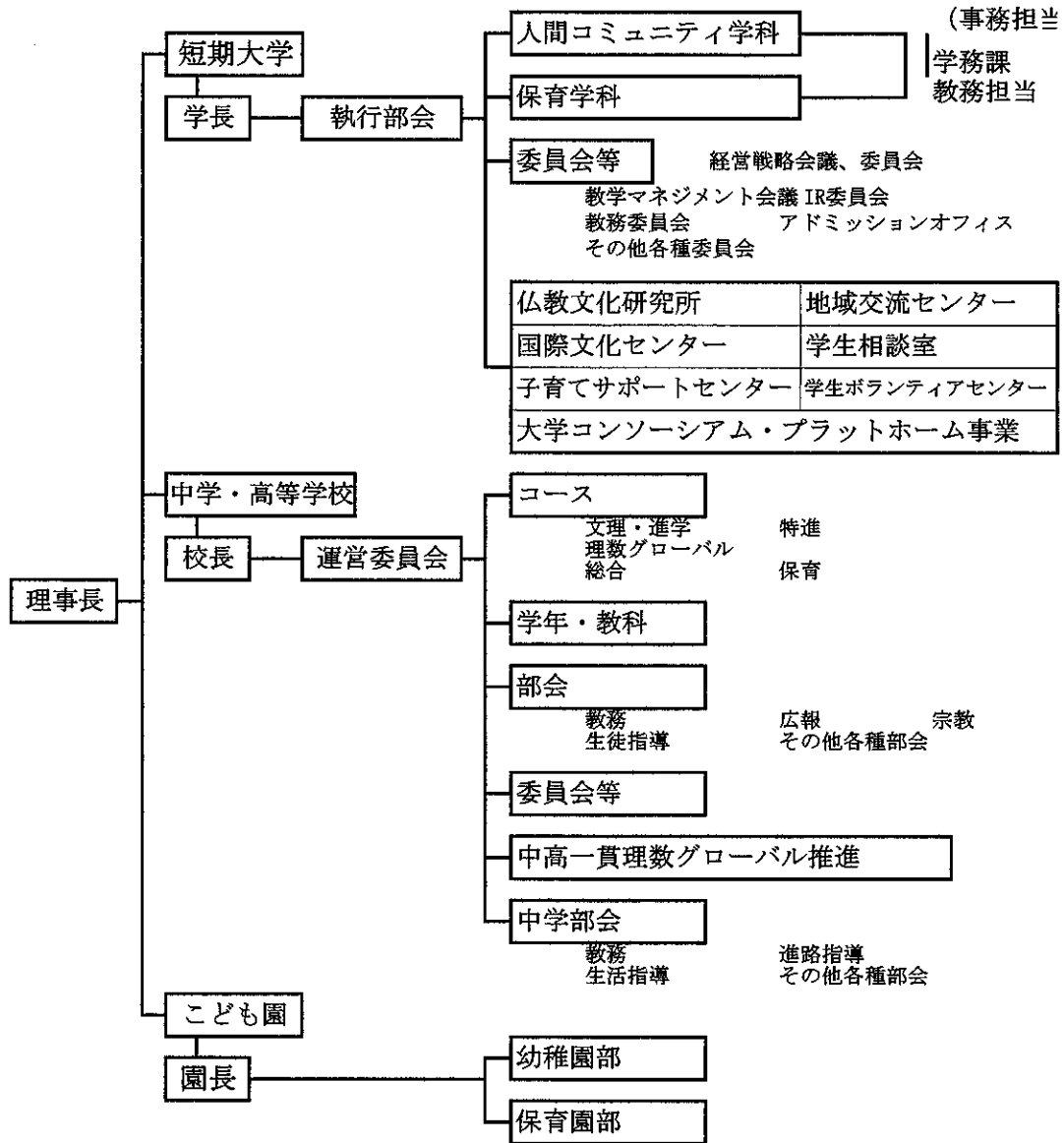
○ 九州龍谷短期大学 〒841-0072 佐賀県鳥栖市村田町岩井手1350
 Tel (代表) 0942-85-1121

(5)その他の施設

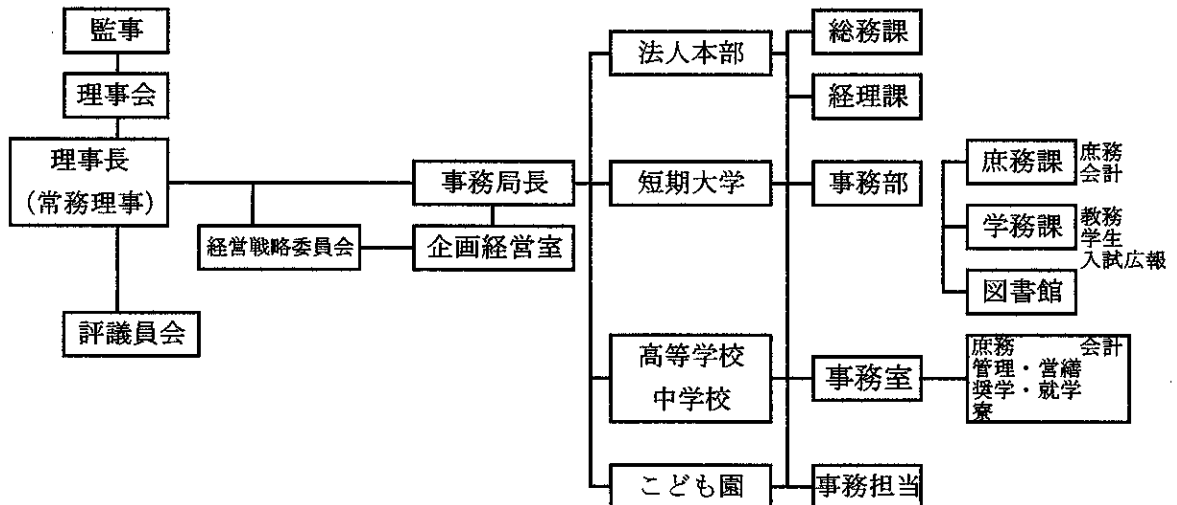
- ① 高等学校 紫英寮(男子寮) 佐賀県佐賀市木原2丁目12-21
 ② 高等学校 紫恩寮(男子寮) 佐賀県佐賀市兵庫町大字淵字四本松1333-4
 ③ 高校人工芝サッカーグラウンド 佐賀県佐賀市北川副町大字江上字一本杉180-1

(6) 学校法人の組織

①教育組織



②運営・事務組織



(7) 学生・生徒・園児数の状況

① 令和4年度 生徒・園児数の状況 (令和4年5月1日現在)

学校名	学科名		1年 (年少・0歳)	2年 (年中・1歳)	3年 (年長・2歳)	合計
九州龍谷短期 大学	人間コミュニ ティ学科	学則定員	40	40	—	80
		現 員	26	34	5	65
	保育学科	学則定員	60	60	—	120
		現 員	41	32	20	93
	(短大合計)	定員合計	100	100	—	200
		現員合計	67	66	25	158
龍谷高等学校 (全日制普通科)	普通科	学則定員	440	440	440	1,320
		現 員	240	212	195	647
	特進科	現 員	16	33	29	78
	(高校合計)	現員合計	256	245	224	725
龍谷中学校		学則定員	70	70	70	210
		現 員	16	19	17	52
龍谷こども園	幼稚園部	利用定員	52	52	54	158
		現 員	50	49	53	152
	保育園部	利用定員	9	18	25	52
		現 員	4	22	26	52
	(こども園合計)	現員合計	54	71	79	204
学園全体		学則定員	671	680	589	1,940
		現員合計	393	401	345	1,139

② 令和5年度 生徒・園児数の状況 (令和5年5月1日現在)

学校名	学科名		1年 (年少・0歳)	2年 (年中・1歳)	3年 (年長・2歳)	合計
九州龍谷短期 大学	人間コミュニ ティ学科	学則定員	40	40	—	80
		現 員	37	27	3	67
	保育学科	学則定員	60	60	—	120
		現 員	20	42	4	66
	(短大合計)	定員合計	100	100	—	200
		現員合計	57	69	7	133
龍谷高等学校 (全日制普通科)	普通科	学則定員	440	440	440	1,320
		現 員	228	226	207	661
	特進科	現 員	15	16	32	63
	理数グローバル	現 員	11	—	—	11
	(高校合計)	現員合計	254	242	239	735
龍谷中学校		学則定員	70	70	70	210
		現 員	27	16	19	62
龍谷こども園	幼稚園部	利用定員	52	52	54	158
		現 員	51	52	51	154
	保育園部	利用定員	9	18	25	52
		現 員	4	24	28	56
	(こども園合計)	現員合計	55	76	79	210
学園全体		学則定員	671	680	589	1,940
		現 員	393	403	344	1,140

(8) 役員概要 (令和5年5月1日現在)

ア) 役員概要

- ① 理事 寄附行為第5条第1項第1号 理事数 11人以上13人以内
 理事現員 13人
 ② 監事 寄附行為第5条第1項第2号 監事数 2人以上3人以内
 監事現員 3人

イ) 令和4年度 理事会開催数 7回

ウ) 役員名簿

区分	名前	常勤・非常勤	摘要
理事長	篠塚 周城	常勤	平成29年4月理事就任 平成29年4月理事長就任 令和3年5月重任 (元佐賀県議会議員)
常務理事	後藤 明信	常勤	平成26年4月理事就任 平成26年4月常務理事就任 (九州龍谷短期大学学長)
理事	葛谷 英淳	非常勤	令和3年4月理事就任 (浄土真宗本願寺派統合企画室長)
理事	光岡 理學	非常勤	平成13年3月理事就任 平成17年3月理事長就任 平成21年3月～23年3月 理事長就任 平成23年3月理事重任 令和3年5月理事重任 (浄土真宗本願寺派宗会議員)
理事	吉松 幸宏	常勤	平成31年4月理事就任 (龍谷中学校・高等学校校長)
理事	峯 晋	常勤	平成31年4月理事就任 (龍谷こども園園長)
理事	熊谷 法明	常勤	平成28年9月理事就任 (佐賀龍谷学園事務局長)
理事	杉町 利朗	非常勤	平成28年9月理事就任 令和3年5月重任 (龍谷中学校・高等学校同窓会会長)
理事	熊谷 信隆	非常勤	平成29年5月理事就任 令和3年5月重任 (願正寺責任役員)
理事	枝吉 恒則	非常勤	令和3年5月理事就任 (元佐賀商工会議所連合会専務理事)
理事	山下 一夫	非常勤	平成25年5月理事就任 令和3年5月重任 (元龍谷中学校・高等学校校長)
理事	谷口 太一郎	非常勤	令和3年5月理事就任 (伊万里学園理事長)
理事	西山 是明	非常勤	令和2年9月理事就任 令和3年5月重任 (佐賀教区教区会議長)
監事	北島 恭一	非常勤	平成21年3月監事就任 令和3年5月重任 (会社役員)
監事	古谷 宏	非常勤	令和3年5月監事就任 (元佐賀県教育長)
監事	柿原 剛人	非常勤	令和4年5月監事就任 (公認会計士事務所所長)

エ) 役員、教職員に係る訴訟・紛争等・・・無し

オ) 関連当事者(学園役員、教職員)と本学園との取引について 該当者無し

カ) 当法人の借入に対する被保証人 4人

(9) 評議員の概要 (令和5年5月1日現在)

ア) 評議員の概要

① 評議員 寄附行為第21条 評議員数 33人以上37人以内
評議員現員 33人

イ) 令和4年度 評議員会開催数 3回

ウ) 評議員名簿

名 前	主な現職等	名 前	主な現職等
後藤 明信	九州龍谷短期大学学長	吉松 幸宏	龍谷中学校・高等学校校長
峯 晋	龍谷こども園園長	熊谷 法明	佐賀龍谷学園事務局長
内野 安成	九州龍谷短期大学副学長	井手 和憲	龍谷中学校・高等学校副校長
原田 淳	龍谷中学校・高等学校教頭	嶺川 英二	九州龍谷短期大学事務長
副島 和典	龍谷中学校・高等学校事務長	中村 祥子	法人本部経理課長
西 百代	九州龍谷短期大学同窓会会長	吉浦啓一郎	九州龍谷短期大学同窓会副会長
杉町 利朗	龍谷中学校・高等学校同窓会会長	鬼崎 浩	龍谷中学校・高等学校同窓会常任理事
古賀 浩之	龍谷中学校・高等学校同窓会副会長	宮崎 健	龍谷中学校・高等学校同窓会副会長
宮崎 達映	九州龍谷短期大学保護者会会長	中津海美和子	龍谷高等学校保護者会会長
欠員	龍谷中学校保護者会会長	鎌坂 卓也	龍谷こども園保護者会会長
葛谷 英淳	浄土真宗本願寺派統合企画室長	光岡 理學	浄土真宗本願寺派宗会議員
神邊 和紀	佐賀教区会代表	徳重 清隆	佐賀組長会代表
泉井 敬文	佐賀教区教務所長	熊谷 信隆	佐賀教区願正寺住職
小杭 正親	佐賀教区専念寺住職	西山 是明	学識経験者(佐賀教区会議長)
谷口太一郎	学識経験者(伊万里学園理事長・門徒宗会議員)	山下 一夫	学識経験者(元龍谷中学校・高等学校校長)
撫尾 知信	学識経験者(元佐賀大学教授・法専寺住職)	菅原 真爾	学識経験者(前県私立幼稚園・認定こども園連合会会長)
枝吉 恒則	学識経験者(元佐賀商工会議所専務理事)	篠塚 周城	学識経験者(元佐賀県議会議員)

(10) 教職員の概要

① 令和4年度 教職員数 (令和4年5月1日現在)

学 校 名	常勤教員	非・教員	常勤事務員	非・職員	合 計
法人本部	0	0	4	1	5
九州龍谷短期大学	16	42	9	3	70
龍谷高等学校	52	13	7	11	83
龍谷中学校	12	2	1	0	15
龍谷こども園	18	27	3	11	59
学園全体	98	84	24	26	232

② 令和5年度 教職員数 (令和5年5月1日現在)

学 校 名	常勤教員	非・教員	常勤事務員	非・職員	合 計
法人本部 (推進本部含)	0	0	3	1	4
九州龍谷短期大学	16	43	9	4	72
龍谷高等学校	49	19	6	14	88
龍谷中学校	12	2	1	0	15
龍谷こども園	19	28	3	10	60
学園全体	96	92	22	29	239

※学内教職員は本務部署に配属。

(11) 系列校等

浄土真宗本願寺派 『龍谷総合学園』加盟校 (宗門関係学校)

浄土真宗本願寺派 (本山：京都・西本願寺) が主催する『龍谷総合学園』に加盟する学園・学校数は次の通りで、北海道～九州・ハワイまで24法人、約7万4千人の学生・生徒・園児が在籍する、わが国最大の学校グループです。龍谷大学を中心に、高大連携を視野に入れた「龍谷アドバンスプロジェクト」「仏教×SDGs」「国際理解教育 PBA留学プログラム」をはじめ、各種研修会・協議会などで連携を深めている。

① 法人数	24 法人
② 大学・短大 (短期大学部) 数	12 校
③ 高等学校数	26 校
④ 中学校数	13 校
⑤ 小学校数	4 校
⑥ 幼稚園・保育園・こども園数	14 園
⑦ インターナショナルスクール	1 校

(12) クラブ活動等の主な成績・活動 (4年度)

(ア) 高等学校

【体育部】

① 剣道部	総体県大会	男子団体：3位	男子個人：優勝
② 柔道部	総体県大会	男女各体重別：男子60kg級：優勝	
③ サッカー部	総体県大会	ベスト4	
	選手権県大会	優勝	全国大会：1回戦敗退
④ 野球部	NHK杯	ベスト4	
⑤ 自転車部	総体県大会	総合優勝、男女各種目優勝	
⑥ 陸上競技部	総体県大会	男子総合：2位	男子110m障害：優勝、3位
		男子400m障害：2位	男子8種競技：優勝
		男子走高跳：2位	男子砲丸投げ：2位
	選手権県大会	男子棒高跳：優勝	男子十種競技：優勝
		男子走高跳：準優勝	男子三段跳：準優勝
		男子4×100mリレー：2位	男子4×400mリレー：3位
⑦ 空手道	総体県大会	男子団体組手：優勝	男子個人形：優勝、2位
			男子個人組手：優勝、3位
		女子団体組手：優勝	女子個人形：2位、3位
			女子個人組手：3位
⑧ 水泳	総体県大会	男子200m、400m個人メドレー：優勝	
		女子200m自由形：3位	
	栃木国体	男子200m個人メドレー：5位	

【その他のスポーツ大会】

- ① サガン鳥栖U-18 高円宮杯 JFA U-18プレミアリーグファイナル：優勝
(プロサッカーチーム サガン鳥栖と提携。U-18の選手は全員が龍谷高校生です)

【文化部・その他】

- ① 吹奏楽部 吹奏楽コンクール佐賀県大会金賞 (佐賀県代表)、九州大会銀賞
マーチングコンテスト佐賀県大会金賞 (佐賀県代表)、九州大会吟賞
アンサンブルコンテスト佐賀県大会金賞 (佐賀県代表)、九州大会銀賞
- ② 美術部 佐賀県高校総合文化祭美術工芸部門：準特選 (立体部門)

(イ) 中学校

- ① 佐賀県ジュニアゴルフ選手権大会：個人優勝
- ② 佐賀県中体連大会 剣道部 男子団体：3位

2 事業の概要

「学校法人佐賀龍谷学園 第1期経営改革計画（中期計画）」の中で、令和4年度に特筆すべき事項等の事業報告

(1) 学園全体に関する事項（法人本部関係）

ア) 佐賀龍谷学園第1期経営改革計画（中期計画）の作成と推進

創立140周年記念事業終了により、平成30年度から「第1期経営改革計画」を作成し推進してきた。

この計画を毎年検証し、未達成事項は計画を変更し推進することになるが、学生、生徒が予定通りに獲得出来ていない状況から、期間を延長し、令和5年度までに変更した。

①企画経営室の設置

財務の健全化と経営の安定を目指すため、「企画経営室」を設置した。経営戦略委員会のもとで、経営判断のための基礎的作業を行う。

- ・経営方針の企画、立案に係る基礎作業
- ・経営状況の把握、分析に係る基礎作業
- ・中期計画の策定、進捗管理に係る基礎作業
- ・経営戦略に関するその他重要事項に係る基礎作業

②「働き方改革」と「人事考課制度の導入」による職場環境の活性化

働き方改革を見据え、総合的な人事評価システムを導入するため、各部門の教員、職員毎の人事考課制度導入をすすめ、活力有る職場環境の構築を目指す。

③創立150周年（2028年）へ向けての第2期経営改革計画の策定

現在の経営改革計画は平成30年度～令和5年度迄の6ヶ年計画であるが、令和10（2028）年に迎える創立150周年へ向けての第2期経営改革計画の概要を検討する。

なお、第1期経営改革計画を令和5年度まで延長したため、第2期経営改革計画は令和6年度から創立150周年を迎える令和10年度となる。

④水ヶ江キャンパスの整備と鳥栖キャンパスの有効利用

高等学校、中学校、こども園がある水ヶ江学舎の総合的な学舎整備、及び短期大学がある鳥栖キャンパスの有効的な活用について検討する。

(2) 九州龍谷短期大学に関する事項

(1) 教学改革計画

①鳥栖市及び周辺地域との連携

(現状)

本学は鳥栖市唯一の大学であり、地域と連携し、地域に貢献することは社会的使命である。また、本学卒業生の就職先等と連携した教育改革を進める必要があり、本学においても地域の産学官連携に基づいた大学づくりを推進している。平成28年6月には、地域の課題解決と地域振興を担う人材の育成、地域産業の活性化という目的を達成するため、鳥栖市と鳥栖市教員委員会、及び本学との包括連携協定を締結した。また、平成30年7月には、地域産業の振興及び地域活性化や地域課題解決型学習やインターンシップ等を通じた人材育成に寄与することを目的として鳥栖商工会議所との包括連携協定を締結、さらに令和元年12月には、地域福祉発展に寄与するため、鳥栖市社会福祉協議会との連携協定を締結した。

(令和4年度 事業報告)

鳥栖市及び鳥栖市教育委員会との連携協定に基づく活動としては、主に教員の人材派遣が中心となっており、令和4年度は、幼保小連絡協議会における講師、鳥栖市就学相談会の相談員、鳥栖市図書館協議会委員へ教員を派遣した。

社会福祉法人鳥栖市社会福祉協議会（鳥栖市社協）との連携事業として、鳥栖市社協の事業である「3歳ひろば」やその他のイベント等に本学学生のボランティア派遣や、「親子で遊ぼう～わんぱく王国～」を共催で開催した。また、保育学科教員が鳥栖市子育て支援担当者会議に出席し、地域の課題やニーズを選定し、学生や他の教員との情報共有を図りながら問題解決に向け取り組んでいる。

さらに、令和3年度から鳥栖市社会福祉協議会が実施している引きこもり支援事業を本学との共同事業として位置付け、令和4年度には共同での研修会の開催や実態調査を実施した。実態調査の分析も引き続き継続して実施している。

②学部等の改組・募集停止・定員の見直し等

(現状)

ここ数年の入学者数は、平成30年度94名、令和元年度73名、令和2年度71名、令和3年度65名、令和4年度67名、令和5年度57名と下降している。

令和5年度の間人コミュニティ学科の入学生は、令和4年度の26名から37

名と11名増加したものの、保育学科の入学生が令和4年度の41名から20名と21名減少した。入学生数の合計では、令和4年度67名から令和5年度57名と10名減少した。

(令和4年度 事業報告)

- i) 経営改革計画書策定当初に計画していた定員継続を変更し減員することにした。それでも1学年100名以上を確保する必要があることから、令和3年度から人間コミュニティ学科定員50名→40名、保育学科75名→60名に変更し、学生の充足率の向上を図った。文部科学省による高等教育における修学支援新制度の機関要件の1つとして、定員充足率80%が要件となっている。定員充足率の最終目標は100%であるが、令和5年度における学生募集対策を充実させることによって、最低限80%を達成できるよう取組みを強化する。
- ii) 令和元年度から長期履修生制度を活用した「3年コース」を人間コミュニティ学科でも設置した。令和2年度は5名、令和3年度は3名、令和4年度は5名、令和5年度は9名の入学者があり、少人数ではあるが増加傾向である。しかし、令和5年度保育学科入学生20名の内3年コース在籍の学生は3名であり、例年より減少した。長期履修生制度「3年コース」に在籍する3年目の学生数は、定員充足率を算出する際に含むことができるようになっている。つまり「3年コース」在籍の学生が多いことで定員充足率も向上することから、今後においても両学科の「3年コース」在籍者数を増加させることも重要と考えている。
- iii) 令和5年度から、人間コミュニティ学科において、司書・心理コースのコース名称をデータサイエンスコースに変更した。(4年度中に検討した)
司書・情報コースから司書・心理コースにコース名称を変更して2年目であったが、学問領域として心理学領域や司書領域は残しつつ、AIやネットワークなど現代の情報化社会を反映させた科目を追加し、司書・心理コースからデータサイエンスコースにコース名称を変更した。データサイエンスコースの令和4年度の入学生は12名であったが、令和5年度の入学生は21名に増加し、人間コミュニティ学科の入学生の増加に繋がった。

④カリキュラム改革・キャリア支援等

(令和4年度 事業報告)

令和元年度より、保育学科においてスキルアップ・プログラムを実施している。スキルアップ・プログラムは、学生がそれぞれの得意分野に関する学びを深め、学生がさらなるレベルアップすることを目指したプログラムである。既存のカリキュラムの中で学修する内容からよりレベルアップした内容にすることで、学生は卒業後に保育者として保育・教育現場に出た際に、自

信を持って働くことができると考えている。

本プログラムは「表現系」の3ユニット（造形、運動、音楽）、「教育系」3ユニット（心理、経営、言葉）の計6ユニットから構成されており、1年後期から2年後期までの3学期間をかけて実施している。令和4年度は、カリキュラム編成を工夫し、本プログラムを実施するための時間が確保できたことにより、令和3年度よりも充実したプログラムを実施できた。

（2）学生募集対策と学生数・学納金・奨学金等

①学生募集対策

（令和4年度 事業報告）

令和5年度の入学者数は57名（人間コミュニティ学科37名・保育学科20名）で、令和4年度入学生数より10名減少した。現在の在学者数は、現2年生69名と3年目の長期履修生7名を合わせて133名となり、令和4年度の158名から25名減少し財務的にかなり厳しい状況である。

令和4年度は学生募集活動の一環である広報活動に重点を置き、様々な取り組みを実施した。ツイッターやインスタグラムなどのSNSによる情報発信を強化することで、高校生や保護者に対してダイレクトに情報が届くように工夫した。またホームページの更新業務が迅速かつスムーズに行えるようにホームページを一新した。

②経済的に困窮している学生への支援

経済的に困窮している学生への支援は、令和2年度より施行された国の修学支援新制度を活用し支援している。この新制度により、令和4年度は28名（1年：17名、2年11名）の学生が授業料等の減免や給付奨学金を受給することができた。また、学納金の分割納入など本学独自の対応も実施することでサポートを強化している。上記の対応に加え、保育学科の学生については、保育士不足対策として各地域の自治体や社会福祉協議会等が実施している奨学金制度を斡旋することで対応を強化している。

（3）鳥栖キャンパスの有効利用

（令和4年度 事業報告）

短期大学には売却できる遊休資産は見当たらない。約81,000㎡の未使用の雑種地があるが、地元鳥栖市との間に申し合わせがあり、本学園の判断のみで有効利用したり、資産売却をしたりすることが出来ない。

現状はこの通りであるが、この件について年月の経過とともに本学をとりまく環境も変化しているため、鳥栖市との契約当初の内容の見直しに向け協議予定である。

(4) 人事政策と人件費の抑制計画

(令和4年度 事業報告)

令和5年度入学者数は57名(人間コミュニティ学科37名、保育学科20名)であり計画策定当初を大きく下回っている。このため、前年に引き続き令和5年度の短期大学期末手当も教員職員ともに大幅な減額とする予定である。

また、令和3年度の非常勤講師(46名)の時間数は2,459時間、令和4年度の非常勤講師(42名)の時間数は2,196時間と非常勤講師に依頼する担当時間数を263時間減らすことができた。本学及び各学科のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえたカリキュラムを編成し、高校生等にとって魅力ある教育内容を構築するためには、大幅な科目削減は現実的ではないため、一定数の非常勤講師の採用は避けられない。今後の教職員の待遇改善のためにも、定員充足に向け学生募集活動を活性化させる必要がある。

(5) 経費抑制計画(人件費を除く)

<奨学費について>

国の修学支援新制度が令和2年度から施行されたことにより、入学特典としての授業料の減免制度を廃止し、令和3年度から新たに給付型奨学金制度を設け学生募集活動を実施した。しかし、学納金に対する奨学費(授業料等の減免費)の割合が、他大学平均では約5~8%であるのに対し、本学では約20%と高くなっている点が課題である。この点については、令和4年1月に実施した私学事業団への経営相談の中でも指摘を受けており、奨学費抑制に向けた新たな基準策定を協議して実施する必要がある。

(6) 施設等整備計画

(令和4年度 事業報告)

①施設等の整備

- ・本館エントランスの階段補修や広場のタイル撤去工事(約223万円)。
- ・本館2階子育てサポートセンター 外壁雨漏り修理(約16万円)。
- ・学舎全体の空調設備、講堂外装防滴塗装の環境整備については、現在取り組むのは困難な財政状況であるため、学生充足率が改善してから今後取り組みたい。

②学修環境の整備

- ・人間コミュニティ学科の情報系授業のなかで商用データベースを利用開始した(ジャパンナレッジLib6ヶ月約13万円、佐賀新聞電子版6ヶ月約7万円)。

- ・図書館では田嶋記念大学図書館財団の助成金を受け、手動式移動書架を新設した（約150万円）。
- ・経年劣化で故障した本館教室等の照明27台で45本をLEDに交換した（約28万円）。
- ・九州電力の割引が令和4年12月からなくなり、月額約20万円の値上がりとなっている。令和6年度入学生から施設設備費の値上げを行う。

③女子寮（慈風寮）

- ・近年の本学女子寮への入寮者の減少に伴い、令和2年度をもって閉寮した。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、龍谷高校生で寮生活者の健康観察期間の宿泊用として一部期間利用した。コロナ禍での完全閉寮に伴う事務手続きは延期している。

(3) 龍谷高等学校に関する事項

特進コースの進学実績の向上と中高一貫理数グローバルの募集広報を強化し、生徒数の確保（増加）に努めてきました。

また、中学生の入学増を見込み、更に高校特進コースの展開授業の充実、働き方改革への対応等のために、令和元年度・2年度・3年度と教員の増員を行いました。

ICT教育推進を行っていますが、どちらも今後の中高の教育へ対応するためには欠かせない要件です。中高の全職員が一体となりその成果に向けて取り組んで行き、令和5年度までの黒字化を目指し、次のような施策により対応して行きます。

1) 生徒募集関係

令和5年度の新入生を270人程度（文理・総合コース：210人、特進コース30人、保育コース30人）を目標に募集活動を行ってきたが目標に届かなかった。

令和5年度の新入生は、254人（留級者2人を含む）で、令和2年度、3年度、4年度とほぼ同数です。（令和4年度決算資料1-4 表3参照）

内訳は、文理コース67人、総合146人、保育15人、特進15人、理数G11人です。保育コースと特進コース及び理数Gが目標に達しなかった。

令和6年度入試については、入試問題を統一問題とする等、生徒募集力を注ぎます。令和7年度以降については、下記のような対策も視野に入れ準備を行ういます。

①保育コースと総合コースを統合し、保育分野の授業については、展開授業により実施することで、不経済クラスをなくす。

②中高一貫理数グローバルが目指すゴールの一つである、海外進学への道を開拓する。これは、新型コロナウイルス感染症が第5類になり、様々な制約がなくなることを踏まえた取り組みとして考えていきたい。特別進学コースや文理コースの受験者増にも繋がる手立てになる事も期待している。

2) 進路実績等

令和2年度より、これまで進学実績の向上に寄与されてきたキャリアのある教員を採用し、生徒及び教員のレベルアップに努めています。このため、3年度は東京大学、筑波大学、九州大学、佐賀大学医学部をはじめ多くの国公立大学への合格者を出すことができました。

令和4年度は九州工業大学、佐賀大学、長崎大学等へ合格者を出しました。

令和4年度の進学実績については、以下の通りです。

<国公立>		<私立>	
九州工業大学	1	上智大学	1
佐賀大学	5（内、医1）	中央大学	1
長崎大学	1	法政大学	1
鹿児島大学	1	立教大学	1
静岡大学	1	日本大学	2
山口大学	1	日本体育大学	1
徳島大学	1	龍谷大学	9

長崎県立大学	5	京都女子大学	3
福岡県立大学	1	同志社大学	1
北九州市立大学	1	関西学院大学	2
名桜大学	1	立命館大学	1
山口東京理科大学	1	福岡大学	28
下関市立大学	1	西南大学	9
周南公立大学	1	筑紫女子大学	5
国公立大学合計	23人	私立大学合計	194人

短期大学・専門学校 九州龍谷短期大学等 51人
 就職 プロサッカー選手5人を含め、21人

3) ICT教育

佐賀県内で最も進んでいるICT教育を推進し、教育・進路等に活かしました。

① (コロナ対策) リモート授業・会議等の実施

- ・オンライン授業
- ・質問受付などの学習支援
- ・生徒の健康観察や心のケア
- ・オンライン学校説明会
- ・部活動コミュニケーション
- ・教材や課題の配信、提出
- ・生徒、保護者の面談(三者面談等)
- ・進路ガイダンス
- ・学年集会、職員会議、始業式、終業式
- ・学園祭等の動画配信

② (経費面も含めた) これからの方向性

- ・教科横断的な学習のための対応(新課程)
- ・タキソノミーテーブルに基づく授業デザイン
- ・ICT支援員の必要性が増すことへの対応
- ・プログラミング教育の充実・・・AI時代への対応

※ICT公開セミナーを実施し、教員の資質向上と本校教育活動の認知度を高め(募集広報の観点から)本校のブランド力をアピールした。

4) 人件費の削減等(収入に見合う教職員数とする)

令和4年度の募集から特別奨学生を各コースともに「年度更新」とし、生徒に対する学習意欲の喚起と人間力の強化に繋げる指導を行った。しかし、新学習指導要領に伴う新教育課程が令和6年度には高校3学年がそろい、授業時数も増える傾向にある。また、中高一貫理数グローバルの6年間をマネジメントしたカリキュラムを実践することによる授業時数の増加もあるが、4年生以降のカリキュラムは「総合型選抜」を意識した「文理融合型」のカリキュラムを構築するなど、教職員の創意工夫により最小限にとどめている。

クラス数については、中高一貫グローバルの生徒が内進する令和5年度から各学年8クラスになる予定であったが、総合コースの入学者が多かったために、9クラスとなった。

令和6年度は令和7年度入試に向けての対策を確立させることが必要である。令和7年度の「中学校卒業見込み者数」が300人減少することが予想される中、中堅・若手の教職員が安心して働ける環境作りに努めるとともに、定年再雇用については、均一的な再雇用ではなく、仕事量・仕事内容等に合わせた契約方法や非常勤講師での雇用契約(年間契約等)への理解を求めています。

これにより、令和7年度からの入学定員減に合わせ、徐々に適正な教職員の

人員配置とします。

5) 施設・設備関係 (令和4年度実績)

① キューピクルの取替 (老朽化しており保安協会からも取替を勧められていた)	704 万円
② 各教室プロジェクター設置	約 790 万円
③ 家庭科備品 (コンロレンジ、ガス給湯器、沐浴人形) 購入	約 232 万円
④ 吹奏楽器 (マーチング用打楽器) 購入	約 290 万円
⑤ 体育館トレーニング機器購入	約 580 万円
⑥ 寮機器備品 (厨房設備、洗濯機等、乾燥機) 購入	約 430 万円
⑦ 寮 Wi-Fi 環境設定	約 75 万円
⑧ 高校玄関インフォメーション等設置	約 45 万円
⑨ 理科室薬品庫購入	約 30 万円
⑩ 図書購入	約 70 万円
合計	約 3,230 万円

6) その他

- ① 令和5年度から中高一貫グローバルの生徒が高等学校に入学してくることから、中高一貫用のカリキュラム編成や、校納金改訂を行いました。
- ② SDGs 教育推進のため、佐賀青年会議所と連携協定を結びました。

(4) 龍谷中学校に関する事項

(1) 龍谷中高一貫理数グローバル

令和2年度から「龍谷中高一貫理数グローバル」として一新した教育を行うことを前面に打ち出し募集活動を行い、適性型入試や本中学独自の理数グローバル入試を導入するなど試験内容も変更した。そのため受験生は大幅に伸びたが、歩留まりが悪く30人の入学者を予定していたが、令和3年度19名、令和4年度16名、令和5年度27名です。

このことを踏まえ、令和6年度に向けた募集活動を推進する。

(2) 令和4年度の取り組み

令和2年度から中高一貫6ヶ年を教育の柱として中学校を再構築した。

「龍谷 中高一貫 理数グローバル」の設立

- ・(目標) 学年2クラス、6年一貫教育(2年・2年・2年のカリキュラム)
- ・(目標) 21世紀型スキル教育を充実させ、21世紀を生き抜く力(資質・能力)を育み、「自立した学習者」を育成する。

具体的には次の教育を柱とする。

- ① 6年間で3つのステージ(1st=中1, 中2, 2nd=中3, 高1, 3rd=高2, 高3)に分割し、ICT教育を活かし、個性・適正・志望に応じたアクティブラーニング(個別最適化学習)を実施する。

中高5年間の履修内容を高校2年までに修了し、高校3年次は受験対策及び補充学習にあてる。

中高6年間のカリキュラムについて中高合同教科部会を開催し、ステージごとの指導目標、内容と方法、シラバスなどについて一覧表を作成している。それらを用いて理数グローバル用の学習ガイダンスを発刊し、オープンスクール等で説明する。

②GLC(Global Learning Center)の活動

GLCは生徒の自主性を伸ばし、学力向上に寄与する組織である。放課後や長期休暇中の時間を活用した時間とする。学習に関する講座(苦手克服講座、黙々勉強タイム講座等)のほか、英語検定・漢字検定に向けた対策講座、プログラミングに関する講座、龍中学生会や個人研究等におけるプレゼン制作講座も開設し、生徒の個性に応じた学習スタイルで実施する。

③FLP(Future Leaders Project)の活動

総合的な学習の時間と学級活動を合体させて生み出した本校独自の特色有るプログラムである。社会に開かれたプログラムであり、毎週

水曜日の午後と月1回の土曜日を活用し、STEAM教育やSDGsの視点から生徒の探究活動中心とした内容である。

(取り組み事例)

- ・SDGs基礎講座 ・SDGs探究Awards ・統計グラフ ・語学研修
- ・NIE教育 ・Future Designプレゼン ・プログラミング講座
- ・職業体験 ・大学訪問 ・龍中学会 ・フィールドワーク(自然体験)
- ・STEAM教育 等

(STEAM教育)

「理数的な見方・考え方とともに問題解決能力を育む教育」であり、創造性を高める分野横断的な学びである。

S (Science : 科学)、T (Technology : 技術)、E (Engineering : 工業)、A (Art : リベラルアーツ)、M (Mathematics : 数学) の視点を取り入れた教育である。

(SDGs)

Sustainable Development Goals (持続可能な開発計画)。

国連採択の17の目標(ゴール)の視点を、毎日の授業やFLP活動、生徒会活動に取り入れている。

(3) 生徒目標数

令和5年4月入学生は27名。令和6年度募集にあたり、受験生を増やすための方策を検討し、令和6年度以降、以下のような募集・広報を考える。

- ① SNSを活用した動画制作と広報
- ② マーケットとなる受験対象者、特に保護者への説明会の機会の掘起こし(私立中学校合同説明会の実施、寺院まわりによる広報)
- ③ 小学校・塾とのさらなる連携の強化
- ④ 佐賀市内の循環スクールバスの運行
- ⑤ NET教師による英語教育と学級担任としての魅力度のアップと広報
令和5年度から実施の1科(英語)試験に加え、プログラミング試験の導入
- ⑥ 英語検定等の外部試験の優遇措置
- ⑦ オープンスクール等における授業参観、受験生のiPad授業体験、英語力の高さなど理数グローバルの魅力度を発信
- ⑧ こども園卒園生へのアプローチ
- ⑨ 寺院推薦・こども園推薦の活用
- ⑩ 受験生が多くなるような試験日の調整

(4) 生徒数目標を実現するための方針・方策など

①基本的な構想

- ・新しい顧客の開拓と教育内容の変革

○施策1 理数グローバルの教育課程を示して、具体個別の案件を構想する

「3つのポリシー」を策定して具体的な教育プランと実行できる体制づくり、効果的な募集広報を展開する。これまでの「こころの教育」を尊重しながら、基礎・基本となる学力の育成、21世紀の社会で活躍する人財づくりの観点から、「将来構想」を取りまとめた。

新しい中学校のコンセプト

「21世紀の『本物の学力』と『豊かな心』をもつ人」を育成できる中高一貫校

学校ビジョン

Society5.0（超スマート社会）での力強い私学としての学校をデザインする。

大学受験の一般入試はもとより、総合型選抜への対応を図る

大学進学目標：九州大学、難関国公立大学、難関私立大学への進路を実現する。

3つのポリシー

- ①ディプロマ・ポリシー（卒業認定方針）⇒国公立大学・難関私立大学への進学を前提として、「21世紀型資質・能力」を育成する。
- ②カリキュラム・ポリシー（教育課程実施方針）⇒「徹底した面倒見」「双方向的な授業」「ICT利活用の学習」によりアダプティブラーニング（個別最適化学習）を実現する。
- ③アドミッション・ポリシー（入学者受け入方針）⇒適性検査試験と教科試験においては、「本物の学力」「豊かな心」に必要な基礎・基本を問う選抜試験を実施する。

○施策2 「適性検査試験」実施により、県立一貫校を志望する生徒を取り込み、本校の進学へと傾ける。

県立中学校への進学を考える生徒を中心に、本校においても適性検査試験を導入し、それらの層を本校へ向かわせる。

そのために、理数グローバルの魅力度を1年生の学習の様子や活躍の様子を可視化してアピールし、本校進学への視野を広げさせる。

○施策3 従来のイメージを払拭させ、学力を育成しながらFLPなどのユニークな教育活動を推進

入学時から2クラス制度を導入して、6か年一貫教育の体制をつくる

- 1st ステージ (中1・中2) グループ活動による iPad を活用した授業の展開
- 2nd ステージ (中3・高1) 習熟度別によるグループ分け (数学、英語)
 ➡ 理数グローバル α 、理数グローバル β
- 3rd ステージ (高2・高3) 志望別クラスによるグループ分け
 ➡ 国内の大学、国外の大学、起業

○施策4 「社会に開かれたカリキュラム」を採用

社会に開かれたカリキュラム開発として本学園と連携協定を締結した認定 NPO 法人「地球市民の会」と連携し、SDGs 探究活動は前年度に引き続き意欲的に行う。

また、佐賀中小企業青年中央会及び佐賀青年会議所との連携協定を活用し、職業教育及び未来を見据える教育を推進する。さらに、三井住友信託銀行佐賀支店との連携により、金融教育などの推進を図る。

○施策5 新しい教育 (授業・個別学習・学校行事など) を推進するための環境整備

iPad の活用により、各教科での実践を通して生徒の主体性を高め、学力向上につなげる。

○施策6 生徒が「自ら学び、学びの領域を拡げることができる」教育活動を推進する

iPad を活用した授業にあっては、個別最適化学習に係る 5 教科の学力向上に欠かせぬアプリ教材の活用を図る。

新型コロナウイルス感染拡大防止策に伴う臨時休校期間中のリモート授業実施にも大いに活用でき、学力向上に寄与できた。

○施策7 部活動や学校行事を通して、健全な心と体を育成する (学校暦の作成)

令和 5 年度から 1 日 7 時間の授業において、50 分授業に引き延ばすとともに、放課後の自主的活動時間を確保する。

行事については特に校外研修について見直し、理数グローバル生は 1 年フィールドワーク (自然体験学習)、2 年国内、3 年海外での研修と位置づけ、内容についてもより探究的なものにする。

(令和 4 年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、3 年生は国内での語学研修を 11 月に実施した)

○施策8 本校の取り組みを踏まえた、特色ある新しい入試制度の導入
 令和 3 年度の入試からこれまでの、「適性検査試験」「教科試験」

に加え「理数グローバル入試」を導入した。これは、基礎学力の向上だけでなく「ワークショップ」「プレゼン」「GLC」「FLP」等の諸活動を通して、あらゆる分野のリーダーとなり得る人材の育成を目指したものである。

この入試制度で入学した生徒は、希望により「理数グローバル研究生」として、教師の支援を受けながら研究を進める。

○施策9 英語教育の充実

2名のNET (Native English Teacher) は英語教育に傾注するとともに、1年生及び3年生の学級担任をしており、教室では英語のみでの説明や会話を進め、生徒の英語力の向上に努めている。

②令和6年度以降の生徒数目標

これらの活動を通じて令和6年度以降は毎年30人以上の新入生を獲得し、年間2,250万円～3,000万円の収支黒字が計上できる学校にしていく。

(4)龍谷こども園に関する事項

1)教育・保育の質向上のための教職員の研修

(令和4年度 事業報告)

処遇改善加算に該当する教職員を中心に「保育士等キャリアアップ研修」(リモート研修含)等の園外研修の受講を推進した。リモートによる受講がほとんどであったが、12名の常勤職が受講できた。さらに、コロナの感染状況を観ながら、鹿児島への県外研修(目的地:本願寺鹿児島別院、鴨池幼稚園等)へ、4名の教員を派遣し、宗教的情操教育(まことの保育)研修を行うことができた。また令和4年度からは、非常勤教職員の研修会においても、宗教的情操教育(まことの保育)を題材として取り上げ、保育者としての心もちや教育・保育実践について改めて考える研修が実施できた。

2)教育・保育の質向上のための環境整備(園庭並びに保育室)

(令和4年度 事業報告)

令和4年度は、砂場の移動及びリニューアル、さらに築山の新設を行い、子どもが主体的に取り組む環境構成のために遊び環境の充実を図った。

3)安定的な園児確保のための短期大学・高等学校・中学校との更なる連携

(令和4年度 事業報告)

経営改革計画の課題として挙げられている「安定的な園児確保のための短期大学・高等学校・中学校との更なる連携」について、更なる連携強化のため、短期大学・高等学校・中学校との連携強化を行っている。特に、SDGsやLGBTQの観点から、龍谷中学校との交流事業(絵画教室、年中児対象)を行うことができた。令和5年度からは、龍谷中学校の美術教師である田久保教諭に学内講師を依頼し、絵画教室(年中児対象)で交流事業を計画している。

4)食育の推進(給食内容の充実)

(令和4年度 事業報告)

全園児への自園給食が始まり5年目となった。現在、地産地消の食材を選び給食の調理を行っている。学園で借用している北川副の畑で、じゃがいも、さつま芋、大根等、季節の作物を育て、収穫を行い、収穫物の一部を給食で提供できている。

5)こども園園舎の改築計画スタート

(令和4年度 事業報告)

幼稚園部園舎の一部は、令和4年に築21年を迎えた。本園は、幼稚園部と保育園部が離れており、幼稚園としてスタートであった為、0歳児から5歳児までがいる『こども園』では、物理的な面から、教育・保育内容の充実が図りにくい。今後、より一貫した教育・保育を進める上で不便さを感じる為、園舎改築の必要性がある。主な理由は以下の通りである。

1)教育・保育の一体的提供と働く職員の業務及び配置の効率化

2)安心・安全な園生活の実現

3)災害時の安全確保

そこで、本園開園60周年である令和8年度に園舎改築を予定している。これまで、

園舎改築のため、設計士から話を聞いたり、佐賀市保育幼稚園課へ施設整備補助金や利用定員の変更について話を聞いたりした。保育幼稚園課からの説明より、現在の施設整備補助金制度は、令和6年までの計画のため、その後は不明である。施設整備補助金が今後どのような基準となるか、あるいはどの程度補助が出るのかわからない状況のため、確実に補助がおりる令和6年度改築も選択肢の一つであったが、現在の学内財務状況では現実的ではないため、当初の予定通り、本園開園60周年である令和8年度に園舎改築予定とした。

6) 衛生管理の強化

(令和4年度 事業報告)

令和2年度より、衛生管理の強化として教育・保育充実費を月額500円(令和5年度より800円)保護者より徴収している。給食室の衛生管理は食事を扱う場所として衛生管理が非常に難しいので、令和2年度より外部業者へ委託をし、給食室及びランチルームの衛生管理マネジメントを行っている。また、トイレ、保育室の空間・フロア衛生においても衛生管理のマネジメントを委託し、職員への衛生研修等を実施した。

こども園自己評価の保護者アンケートの「安全・環境」項目の評価数値は、97.4%と非常に高い数値となっている。

7) 教職員の働く環境充実・働き方改革に向け、保育 ICT システム(コドモン)導入

(令和4年度 事業報告)

令和2年度事業計画より、教職員の働く環境充実・働き方改革に向けて検討及び実施を図っている。前年度は、コロナ禍の中、教職員の負担軽減のため園行事の見直しを行い、働き方改革に向けて改善を図った。令和4年度6月から、保育 ICT システム「コドモン」を導入した。導入経費については、経済産業省の IT 導入補助金を活用し導入でき、非常に満足している。導入する前は心配していた職員も、システムを少しずつ計画的に導入できたため、今では保護者・職員ともに、満足度が非常に高いようである。令和5年度には、教育・保育カリキュラム作成等も、教職員が iPad を活用し「コドモン」内で作業出来るように、これからも少しずつ計画的に導入していきたい。

8) 園舎施設の有効活用(課外教室誘致の検討)

(令和4年度 事業報告)

保護者より、教育時間後の保育時間を活用した、各課外教室の実施要望が多数あるがなかなか進んでいない状況である。働く保護者が多く送迎が困難なため、こども園内で課外教室を誘致し、実施してほしいということである。当然、捻出される経費は、月謝として保護者負担となる。現在、スイミング教室(南佐賀スイミング、アクセスジャパンスイミング)、書き方教室(鶴丸さん)は実施しているので、その他慎重に誘致の検討を行い、今後、保護者のニーズに応えていきたい。

9) 園児数

(令和4年度 事業報告)

令和4年度は、安定して221人(令和5年3月1日時点)の園児を獲得することができた。

10) 園児数に基づく財務計画等

(令和4年度 事業報告)

1. 安定して園児の確保が出来ている
2. こども園単独で、約1,700万円の収入超過となった。

(令和6年度以降)

1. 本園開園60周年を迎える令和8年度を目処に園舎改築を予定し、令和4年度からは建設までのスケジュールを組むために、法人と連携して具体的に検討している。また、その改築計画を令和6年度～令和10年までの第2期中長期経営改革計画に反映していきたい。
2. 利用定員を222人から224人に増員し、教育・保育の質を目指して安定的に200人以上の園児を獲得する。
3. 収支については、こども園単独で約1,000万円以上の収入超過を見込む。

3 財務の概要

【決算の概要を説明するに当たり、以下のことについて概説いたします】

☆学校会計の特徴、企業会計との違いについて

学校法人活動と企業活動との根本的な違いは、学校法人は学校を運営しその目的である教育・研究を遂行することであり、企業活動は営利と社会貢献を目的とすることにあります。

このように学校法人活動や企業活動の決算時に作成する各種決算書類の内容並びに目的が異なっています。

平成27年度から学校会計基準が変更となり、従来の「消費収支計算書」に代わり、「事業活動収支計算書」の作成が義務付けられました。

これにより経常的及び臨時的収支に区分して収支状況を把握できるよう学校法人会計基準が改正されました。

現在の学校会計基準では「資金収支計算書」「事業活動収支計算書」「貸借対照表」の作成が義務付けられています。

なお、各種計算書の概要については下記のとおりです。

①「資金収支計算書」

「資金収支計算書」とは当該年度の諸活動に関わる全ての資金の動きを記録することによって、当該年度の収入・支出の内容を明らかにする計算書です。

更に、収入・支出を明確にすることで、支払資金の増減状況を表示しています。

その観点から「一般企業のキャッシュフロー計算書」に相当するものです。企業会計のキャッシュフロー計算書は、営業活動・投資活動・財務活動の活動内容毎に作成されています。

②「事業活動収支計算書」

「事業活動収支計算書」は前述のとおり、平成27年度に実施された学校法人会計基準の改正によって「消費収支計算書」から変更されたものであります。

その概要としては、当該年度の教育活動収支、教育外活動収支及びそれ以外の活動に対応する事業活動収入並びに事業活動支出の内容を明らかにするとともに、基本金に組み入れる額を控除した当該年度の諸活動に対応する全ての事業活動収入・支出の状態を明らかにする計算書です。

教育活動収支とは経常的な事業活動収入・支出のうち、経常的な財務活動及び収益活動に係る経費を除いた活動の収入・支出をいいます。

教育活動外収支とは教育活動以外の経常的な財務活動及び収益事業に係る活動に係る事業活動収入・支出をいい、教育活動以外の経常的な活動に係る事業活動収入・支出をいいます。

特別収支とは特殊な要因によって一時的に発生した臨時的な事業活動収入及び支出をいい、教育活動収支、教育活動外収支以外に係る事業活動収入・支出をいいます。

③「貸借対照表」

「貸借対照表」とは期末における「借方勘定」である資産勘定及び「貸方勘定」である負債・基本金・消費収支差額の各勘定の残額を表したものです。

「借方勘定」と「貸方勘定」の合計金額を表示していますので、財務状況の健全性をみることが出来ます。

学校法人会計の特徴的な勘定として、「基本金」があります。学校法人が諸活動の計画に基づき、教育研究の維持・充実に必要な資金を継続的に保持するための金額です。本学園には目的別に第1号基本金・第3号基本金・第4号基本金があります。

(1) 令和4年度 決算の概要

①資金支計算書〔(2) 財務の経年比較の②「資金収支計算書」参照〕

令和3年度の資金収支決算額1,909,374千円に対し、令和4年度の決算額は1,841,884千円で、67,490千円減額となりました。

なお、資金収支計算の過程で、前受金・未収入金等の決算期間調整により、翌年度繰越支払資金（貸借対照表の現金預金残高）は、363,233千円で、前年度の繰越支払資金583,808千円と比較して220,575千円の減額となり、現金預金残高が減額しました。これは、龍谷学事振興金庫借入金を全額返済（211,000千円）したことが大きな要因です。

当年度の施設・設備関係の主な支出は、法人部門では企画経営室設置経費（180万円）、短期大学では、図書館周密書架設置（150万円）です。中学校・高等学校部門では、キューピクル取替（704万円）、体育館トレーニング機器設置（580万円）、各教室プロジェクター設置（790万円）、家庭科調理室機器・教材（232万円）、吹奏楽器（290万円）、寮関係備品等（505万円）、中学校双眼鏡実体顕微鏡（155万円）、こども園部門では、保育ICTシステム（210万円）、築山・砂場（400万円）です。施設・設備関係支出の合計は図書も含み約4,540万円です。

②事業活動収支計算書〔(2) 財務の経年比較の④「事業活動収支計算書」参照〕

令和3年度の事業活動収入合計額が1,200,384千円に対し、令和4年度の事業活動収入合計は1,281,497千円で、81,113千円の増額となりました。事業活動収入は借入金等学校法人の負債を含まない収入です。

一方、事業活動支出合計は1,357,743千円となっており、この額は当該年度に学校活動のために支出された経費をいいます。

その上から、事業活動収入から支出を控除した基本金組入前当年度収支差額（従来の帰属収支差額）が-76,246千円となりました。

また、令和4年度の翌年度繰越収支差額（従来の翌年度繰越消費支出超過額）は-2,598,339千円となりました。

今後は「経営改革計画」を各学校毎に変更し、学生・生徒・園児の入学者増に伴う収入増加を目指し、教育内容の充実、教職員の資質向上、教育環境の充実や各種経費の削減等を教職員一丸となって取り組み、より一層の収支改善を図っていく所存です。

③貸借対照表の状況〔(2) 財務の経年比較の①「貸借対照表」参照〕

令和4年度末における負債及び純資産合計は4,224,819千円となり、前年度と比べ304,925千円の減額となっています。

負債の部の合計は438,094千円で、前年度より228,679千円減額いたしました。

基本金の残高は、6,384,063千円で、第1号基本金が257,298千円増加し、第3号、第4号基本金は同額で期間中の動きは有りません。

貸借対照表の借方勘定である資産の合計額が4,224,819千円に対し、貸方勘定である負債・基本金の勘定合計額は6,822,157千円です。

この差額2,597,338千円が翌年度繰越収支差額であり、333,543千円超過額が増加しています。

本学園の財務状況について総括いたしますと、収入の減少と借入等により、貸借対照表上の翌年度繰越収支差額が増加していることが喫緊の課題であります。経営改革計画に基づく各学校の改革により、特色・魅力有る学校をすることにより、入学者増加を図り経営を安定できるよう、創立150周年を目指し教職員の心を一つにして佐賀龍谷学園の更なる発展に力を尽くします。

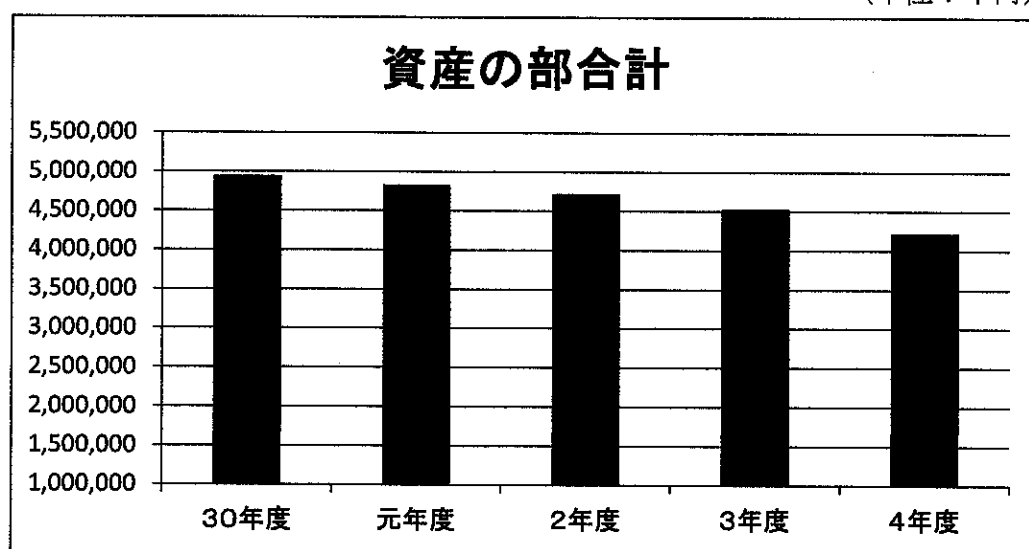
(2) 財務の経年比較

①貸借対照表

(単位 千円)

	元年度	2年度	3年度	4年度
固定資産	4,057,244	3,996,240	3,901,594	3,796,533
流動資産	771,223	725,570	628,150	428,286
資産の部合計	4,828,467	4,721,810	4,529,744	4,224,819
固定負債	561,730	522,486	471,113	265,820
流動負債	247,584	238,443	195,660	172,275
負債の部合計	809,314	760,929	666,773	438,095
基本金	5,917,401	6,030,201	6,126,766	6,384,063
繰越収支差額	△ 1,898,248	△ 2,069,320	△ 2,263,795	△ 2,597,339
純資産の部 負債及び純資産の部合計	4,828,467	4,721,810	4,529,744	4,224,819

(単位：千円)



※3 - (1) ③決算の概要の「貸借対照表」参照

【固定資産】

土地・建物・構築物・機器備品・図書・車輛・積立預金等の基本的資産。

【流動資産】

現金預金・未収入金・前払金・仮払金等の資産。

【固定負債】

長期借入金・退職給与引当金・長期未払金等の負債。

【流動負債】

短期借入金・未払金・前受金・預り金・仮受金等の負債。

【基本金】

第1号基本金(土地建物等の固定資産)、第2号基本金(将来、基本財産を取得するための積立金)、第3号基本金(奨学基金等の積立金)、第4号基本金(恒常的に保持すべき運転資金)の合計。

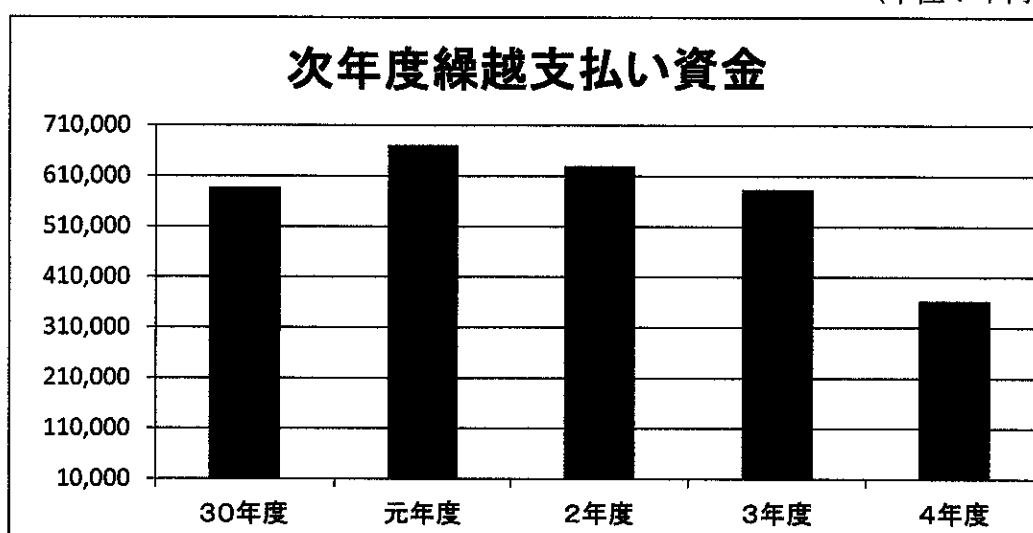
②資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部	元年度	2年度	3年度	4年度
学生生徒納付金収入	574,095	546,015	538,036	559,997
手数料収入	24,000	20,962	24,997	23,571
寄付金収入	21,656	5,712	5,379	18,393
補助金収入	575,853	593,730	566,912	588,937
国庫補助金収入	95,233	88,006	65,231	83,135
地方公共団体補助金収入	324,642	329,163	331,558	329,159
施設型 給付費収入	155,978	176,561	170,123	176,643
資産売却収入		0	0	0
付随事業・収益事業収入	26,976	33,194	36,921	31,661
受取利息・配当金収入	155	121	49	30
雑収入	103,899	63,537	27,287	56,675
借入金等収入	0	0	0	0
前受金収入	54,253	58,881	59,300	57,838
その他の収入	188,652	131,533	121,522	42,920
資金収入調整勘定	△ 161,385	△ 144,135	△ 99,408	△ 121,946
前年度繰越支払収入	659,209	671,052	630,095	583,808
収入の部合計	2,067,363	1,980,602	1,911,090	1,841,884

支出の部	元年度	2年度	3年度	4年度
人件費支出	881,157	826,106	809,970	831,382
教育研究経費支出	284,875	278,117	277,294	311,745
管理経費支出	77,578	69,215	69,822	62,077
借入金等利息支出	1,419	1,350	1,245	1,000
借入金等返済支出	34,000	37,940	44,850	228,610
施設関係支出	14,043	44,095	1,117	7,040
設備関係支出	43,109	43,450	77,660	38,390
資産運用支出	34,289	13,915	4,252	4,645
その他の支出	123,095	99,643	68,185	27,683
資金支出調整勘定	△ 97,254	△ 63,425	△ 27,112	△ 33,921
次年度繰越支払資金	671,052	630,096	583,807	363,233
支出の部合計	2,067,363	1,980,502	1,911,090	1,841,884

(単位：千円)



※3-(1) ①決算の概要の「資金収支計算書」参照

○(収入の部科目説明)

【学生生徒納付金収入】

短大・高校・中学・こども園の学生・生徒・園児の授業料等の納付金。
学生・生徒・園児数は、法人の概要の「学生・生徒・園児の状況」参照。

【手数料収入】

短大・高校・中学の入学検定料や試験料、証明書の発行手数料等。

【寄付金収入】

個人からの寄付や団体等からの寄付。高校サッカー選手権出場の寄付金を含む。
(土地・建物・物品・図書等の現物寄付は除く)

【補助金収入】

短大は主に国庫補助、高校・中学・こども園は主に県費補助(高校・中学は一部国庫補助有り)。

【資産運用収入】

預金の受取利息や施設の利用料等収入、及び各特定資産取崩し収入。

【事業収入】

スクールバスの利用料、寮繰出金、保育園の納付金等の補助活動収入と、外部から委託を受けた受託事業等の収入。

【雑収入】

退職者に支払う退職金の、退職社団・財団からの交付金、及びその他の雑収入。

【前受金収入】

翌年度入学生からの授業料等の前受金収入。

【その他の収入】

特定資産からの受入れ収入、3年度未収入金の受入れ収入等。

【資金収入調整勘定】

4年度末の未収入金と3年度末の前受金等を調整する科目。

【前年度繰越支払資金】

3年度からの繰越金。

○(支出の部科目説明)

【人件費支出】

役員・教員・職員・嘱託の給与・賞与・退職金・福利厚生費等の人件費支出。
教員・職員の人数は、法人の概要の「教職員の概要」参照。

【教育研究経費支出】 【管理系費支出】

教育研究面のために支出する経費や、その他管理のために支出する経費。
「支払手数料支出」は、謝礼・報酬・管理料・その他手数料等の支出。

【借入金等返済支出】

借入金の返済支出。

【施設関係支出】

土地・建物・構築物等の支出。

【設備関係支出】

教育研究面に要する機器備品、管理用機器備品取得の経費、及び図書、車輛の取得経費支出。

【資産運用支出】

『龍谷学事振興金庫』への出資金、及び各特定資産への繰入支出。

【その他の支出】

前期末未払金の支払支出等。

【資金支出調整勘定】

4年度末の未払金と3年度末の前払金を調整する勘定。

【次年度繰越支払資金】

令和5年度への繰越金。

③事業活動収支計算書

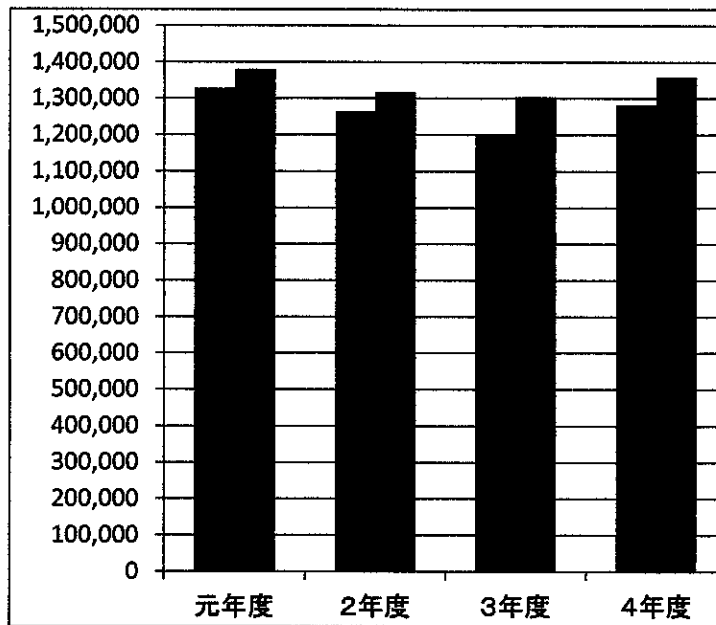
※会計基準改定後

(単位：千円)

		科 目	元年度	2年度	3年度	4年度
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	574,095	546,015	538,036	559,997
		手数料	24,000	20,962	24,997	23,571
		寄付金	21,656	5,712	5,379	18,393
		経常費等補助金	571,372	560,641	543,223	574,807
		国庫補助金	92,659	69,409	62,272	77,270
		地方公共団体補助金	322,735	314,670	310,828	320,894
		施設型給付費収入	155,978	176,562	170,123	176,643
		付随事業・収益事業収入	26,976	33,193	36,920	31,661
		雑収入	103,899	63,537	27,287	58,211
		教育活動収入計	1,321,998	1,230,060	1,175,842	1,266,640
	支出の部	人件費	875,973	826,194	808,724	829,233
		教育研究経費	409,177	403,818	407,560	446,703
		管理経費	93,232	85,336	86,284	79,199
		徴収不能額等	0	0	0	0
教育活動支出計		1,378,382	1,315,348	1,302,568	1,355,135	
		教育活動収支差額	△ 56,384	△ 85,288	△ 126,726	△ 88,495
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	155	122	43	30
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0
		教育活動外収入計	155	122	43	30
	支出の部	借入金等利息	1,419	1,350	1,244	1,000
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0
		教育活動外支出計	1,419	1,350	1,244	1,000
		教育活動外収支差額	△ 1,264	△ 1,228	△ 1,201	△ 970
		経常収支差額	△ 57,648	△ 86,516	△ 127,927	△ 89,465
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0	0	0
		その他の特別収入	5,037	33,761	24,494	14,827
		特別収入計	5,037	33,761	24,494	14,827
	支出の部	資産処分差額	0	0	0	1,608
		その他の特別支出	0	0	0	0
		特別支出計	0	0	0	1,608
		特別収支差額	5,037	33,761	24,494	13,219
		[予備費]				
		基本金組入前当年度収支差額	△ 52,611	△ 52,755	△ 103,433	△ 76,246
		基本金組入額合計	△ 62,159	△ 103,764	△ 117,074	△ 263,908
		当年度収支差額	△ 114,712	△ 156,518	△ 220,502	△ 340,154
		前年度繰越収支差額	△ 1,792,769	△ 1,898,249	△ 2,043,293	△ 2,263,795
		基本金取崩額	9,232	11,474	0	6,610
		翌年度繰越収支差額	△ 1,898,249	△ 2,043,293	△ 2,263,795	△ 2,597,339
<参考>						
		事業活動収入計	1,327,190	1,263,943	1,200,379	1,281,497
		事業活動支出計	1,379,801	1,316,698	1,303,812	1,357,743

事業活動収入合計と事業活動支出の推移

(単位：千円)



(3) 主な財務比率比較

比率名	算式	元年度	2年度	3年度	4年度
事業活動収 支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	-3.960%	-4.610%	-8.616%	-5.950%
経常収支 差額比率	$\frac{(\text{経常収入}-\text{経常支出})}{\text{経常収入}}$	-4.4%	-7.4%	-10.8%	-7.1%
学生生徒等 納付金比率	$\frac{\text{学生生徒納付金}}{\text{経常収入※1}}$	43.4%	44.4%	45.7%	44.2%
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	66.3%	67.6%	68.7%	65.5%
教育研究 経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	30.9%	32.8%	34.6%	35.3%
管理経費 比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	7.1%	6.9%	7.3%	6.3%
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	311.5%	304.3%	321.0%	248.6%
積立率	$\frac{\text{運用資産※3}}{\text{要積立額※4}}$	244.1%	223.1%	208.9%	131.4%
教育活動資金 収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入}}$	-4.3%	-7.4%	-10.7%	-7.0%

※1 経常収入＝教育活動収入＋教育活動外収入

※2 基本金要組入額＝基本金＋基本金未組入額

※3 運用資産＝特定資産＋有価証券＋現金預金

※4 要積立額＝退職給与引当金＋2号基本金＋3号基本金＋減価償却額

【経常収支差額比率】 $(\text{経常収入}-\text{経常支出}) \div \text{経常収入}$

事業活動収支に関する比率で、10%程度を安定的に保持する事が望まれる。

この比率がプラスの場合、経常的な活動から経営原資を生み出しており、経営に余裕をもたらしていると評価できる。

マイナスの場合は、経常的な活動に於いて資産が流失していることを意味する。

【人件費比率】 人件費÷経常収入

事業活動収支に関する比率で、人件費の経常収入に占める割合を示し、50%未満が望まれる。

【教育活動資金収支差額比率】 $\frac{\text{教育活動資金収支差額}-\text{教育活動資金収入}}{\text{退職給与引当金}+\text{2号基本金}+\text{3号基本金}+\text{減価償却額}}$

比率はプラスが望ましい。本業である教育活動収入の範囲内で、どの程

度余裕を持って運営しているかを把握することが出来る。

【積立率】 $(\text{特定資産}+\text{有価証券}+\text{現金預金}) / (\text{退職給与引当金}+\text{2号基本金}+\text{3号基本金}+\text{減価償却額})$

資産運用に関する比率で、学校法人の経営の持続的かつ安定的に継続するための運用資産の保有状況を表します。100%以上が望まれる。

本学の場合は2号基本金を積み立てていないため、比率が高くなっている。

【流動比率】 流動資産／流動負債

1年以内に払わなければならない流動負債に対して、現金等の流動資産がどの程度用意されているかという、短期的な支払い能力を判断する指標のです。

200%以上が優良です。

(4) その他

①有価証券の状況

債券、株式等有価証券は所有していません。

②借入金の状況（令和5年3月31日現在）

借入先	借入残高	年返済額	返済期限	担保	備考
佐賀銀行	4,000,000	400万	令和6年3月	土地建物	こども園新園舎改築
龍谷学事振興金庫(本願寺)	0	-	令和4年11月に一括返済	無	(高校校舎)
私学事業団	106,720,000	667万	令和20年9月	土地建物	高校本館等耐震
私学事業団	7,880,000	394万	令和6年9月	土地建物	高校楽器・空調機
佐賀銀行	36,000,000	300万	令和17年3月	土地建物	短大トイレ改修
合計	154,600,000	4485万			

③補助金の状況

経常経費補助金の他に、4年度は次の特別補助金が採択されました。（主な補助）

(短大) ①経常経費補助の内、改革総合支援事業等の特別補助 12,540,000円
②授業料減免 12,033,600円

(高校・中学)

①ICT教育設備 5,766,000円
②SSP関係 9,077,000円
③魅力有る学校づくり枠 3,000,000円
④物価高騰対策 1,689,000円
⑤県外生徒流入促進 1,000,000円

(こども園) ①私立幼稚園特別支援教育費補助 1,568,000円
②特別保育対策（障がい児保育等）事業 3,356,341円
③保育士等処遇改善臨時特例補助（4～9月分） 2,552,520円
④コロナ関係補助金 500,000円
⑤保育ICTシステム補助金 1,136,000円

④学校債の状況（令和5年3月31日現在）

短期大学・高等学校とも学校債を休止し、全額を返済若しくは寄付いただいたため、残金はありません。

⑤寄付金の状況（令和5年3月31日現在）

寄付金の種類	寄付者	金額	摘要
一般寄付	宗派・職員・個人等	3,900,978	預かり金からの寄付含む
特別寄付	個人・団体	14,492,496	指定寄付（サッカー部・吹奏楽部等）
現物寄付	高校卒業生、業者等	697,539	卒業記念品、書籍等
合計		19,091,013	

※令和4年度は高校サッカー部全国選手権大会出場のため指定寄付として、13,184,001円の寄付を頂いた。

⑥収益事業の状況

収益事業会計を設置していましたが、現在の収益事業は販売手数料等、学校教育活動に付随しているものばかりであり、平成20年度から休止しています。

⑦関連当事者等との取引の状況

関連当事者との取引はありません。
当法人の借入に対する被保障者 4人

以 上

協定書を手にする佐賀青年会議所の島内陽輔理事長(左)と佐賀龍谷学園の篠塚周城理事長(右)佐賀市水ヶ江の佐賀龍谷学園



グローバルな人材育成目指し

佐賀龍谷学園と佐賀青年会議所が連携協定

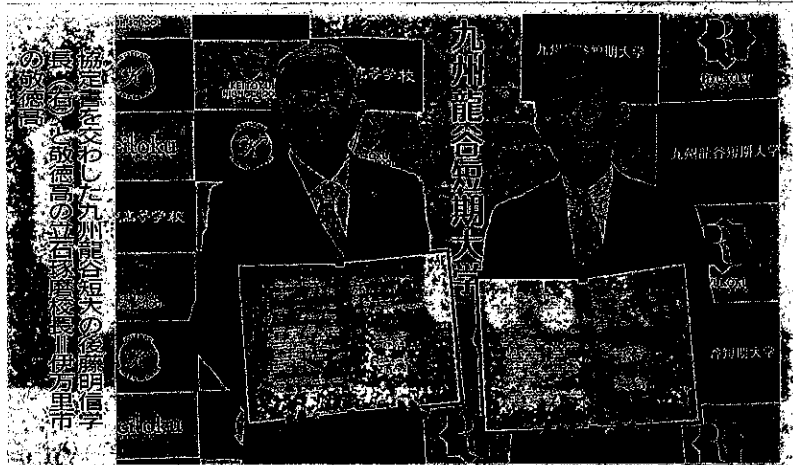
佐賀市 佐賀市の佐賀龍谷学園(篠塚周城理事長)と佐賀青年会議所(島内陽輔理事長)が、SDGs(持続可能な開発目標)の教育を推進するための連携協定を結んだ。龍谷中・高の生徒たちに働きがいや経済成長など国連が掲げるSDGsへの理解を促し、グローバルな人材の育成を目指す。

協定を通じて佐賀青年会議所が生徒たちに助言したり、発表の場を提供したりする。国際理解教育などに関する講演やワークショップも実施

するほか、起業家教育にも力を入れる。佐賀龍谷学園で12日に調印式が行われ、協定書に調印した島内理事長は「子どもに関する取り組みに参加できることを大変うれしく思う。経済や地域創生などの勉強にぜひ役立ててほしい」と述べた。篠塚理事長は「企業人と接することで得られるものは多い。生徒たちが自ら考えて行動できるよう成長の糧になってほしい」と期待を寄せた。

紙面編集・灰塚ちひろ

(伊東真子)



協定書を交わした九州龍谷短大の後藤明博学長(左)と敬徳高の立石校長(右)伊万里市の敬徳高

九州龍谷短大と敬徳高が協定

23年度から 教員派遣し授業、単位認定も

九州龍谷短大(鳥栖市)と敬徳高(伊万里市)の保育人養成に関する連携協定の調印式が6日、敬徳高であった。2023年度から同短大保育人科の講義を敬徳高で受講できるように、生徒が同短大に進学した場合単位として認められる仕組みを導入する。敬徳高では4月から普通科に保育コースを新しく設け、生徒は2、3年時限と目同短大の保育学科で学ぶ「ヒューマン・あそび学」などを取り入れ、教員を派遣して授業を受ける体制を整えている。

同様の仕組みは同短大と龍谷高(佐賀市)の保育コースの間でも22年度から取り入れられている。(青木宏文)

九州龍谷短期大学 ドローン講座開催

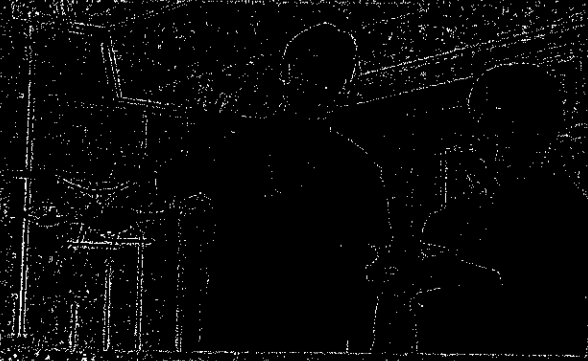
鳥栖市

ドローン公開講座 操縦体験開催

鳥栖市の九州龍谷短大で、ドローン施設協会（鳥栖市）とのコラボによる公開講座「ドローンを飛ばしてみよう！」が5月12日に開催されました。短大ウェブサイトや鳥栖市紙、県民カレッジ等パレット佐賀の案内を見て事前申し込みをした20人と短大の学生が参加しました。

ドローンの魅力は、飛行する楽しさや上空からの映像ですが、最近ではレースやビジネスにも使われるようになり、ユーザーの層が広がっています。一方で法規による規制は年々厳しくなっていて、国土交通省への機体登録や屋外でのフライトには許可申請が必要になっています。

この講座ではドローンを取り巻く環境やプロポ（送信機）の使い方を学び、ドローンのシミュレーター4台と実機2台を使っ



鳥栖市の九州龍谷短大で、ドローン施設協会とのコラボによる公開講座「ドローンを飛ばしてみよう！」が開催された様子。

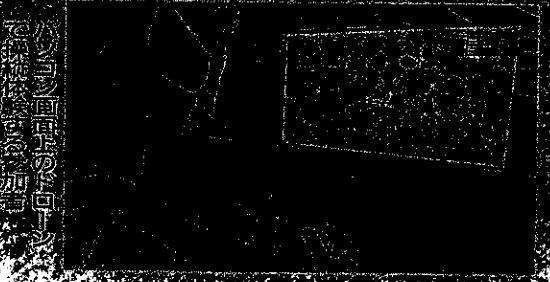
楽しんで体験 大盛況！

で操縦体験が行われました。

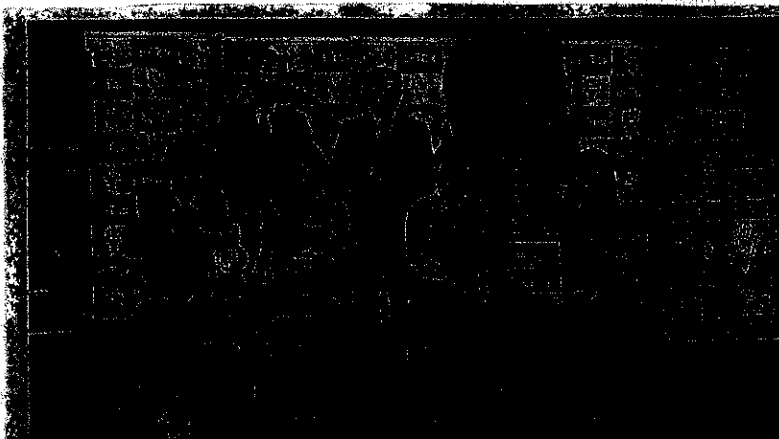
シミュレーターでは、パソコン画面上のドローンで、四角や円を描く操縦体験をしました。実機では少し上昇させホバリングをさせた後、上昇・下降・前進・後退・旋回などを試しながら、操縦の楽しさを体験していました。

参加者は「一度飛ばしてみたかった！」「プロポを使うのは初めてだったけど、ゲームみたいで楽しかった」などこれまで興味はあったけど、分からなかったことや体験できなかったことを知る機会となり、大盛況でした。最後にドローンから集合写真を撮りました。次回は10月に開催予定です。

（地域リポーター・酒原田谷＝鳥栖市）



ドローン画面上のドローンで操縦体験の様子。



PR動画制作に協力した学生らの撮影
 動画制作に協力した学生らの撮影

スマホで確定申告 動画を制作

九州大学短大生 福岡・天神のビジョンで放映

【佐賀県佐賀市】九州大学短期大学部（短大）の学生が、2週間の制作期間を経て、スマートフォンから撮影した確定申告のPR動画を制作し、3月17日まで、天神駅周辺に設置されたビジョンで放映した。このPR動画は、確定申告の重要性を伝えるだけでなく、スマートフォンから簡単に申告できることをアピールしている。制作には、短大の学生が協力し、撮影もスマートフォンで行った。制作期間は2週間だったが、学生たちは熱意を持って取り組んだ。このPR動画は、確定申告の重要性を伝えるだけでなく、スマートフォンから簡単に申告できることをアピールしている。制作には、短大の学生が協力し、撮影もスマートフォンで行った。制作期間は2週間だったが、学生たちは熱意を持って取り組んだ。

佐賀新聞の佐賀県版で



九州大学短期大学部



新聞でプールの学生らと楽しむ 九州龍谷短大で親子教室

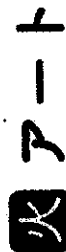
鳥栖市

鳥栖市の九州龍谷短大で親子教室が開かれた。

鳥栖市の九州龍谷短大で親子教室が開かれた。子ども5人、保護者9人が参加。学生や教員が親子と一緒に遊んだり、専門家が児童の成長について関する保護者の相談に応じた。親子教室は保育士の学生らも龍谷短大(佐賀市)と鳥栖商業高(鳥栖市)の

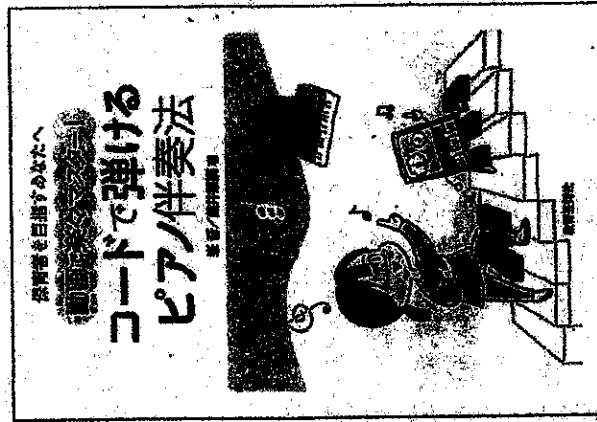
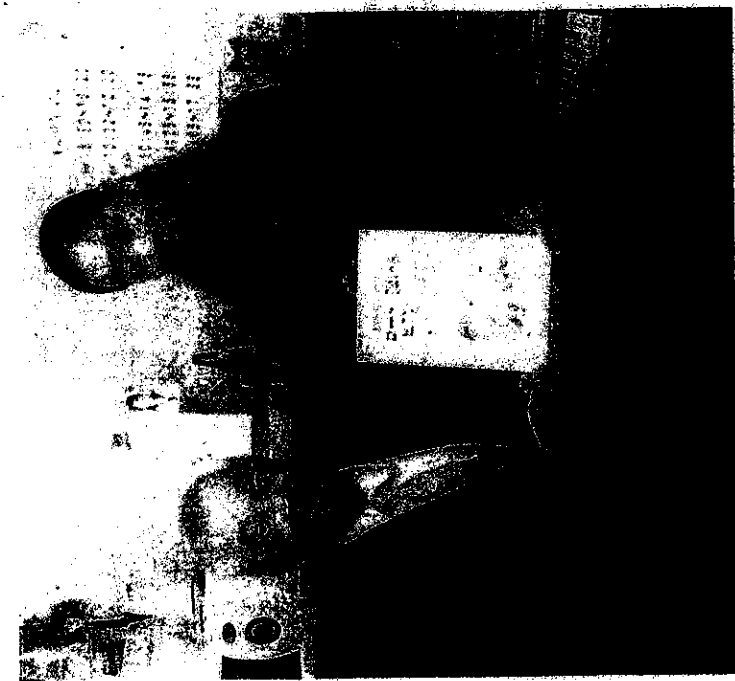
生徒9人が対応した。子どもたちは新聞紙のプールなどで体を動かす、紙コップを振って中に入っている物を当てるゲームなども楽しんだ。相談会ではカウンセラーや幼稚園園長の経験がある職員らが、7組の親子から育児や発達に関する相談を受けた。

(花木美美)



ピアノ伴奏、コードで簡単に

藤井まこと 著 楽譜出版社 出版



本書は楽譜に記載されたコード(和音)を基に、簡単にピアノの伴奏ができる方法を紹介する。54本にのぼる楽譜と解説の動画は、テキストの内容を補っている。保真者による活用も見舞え、初級曲によく使われる「長調」「短調」と長調を中心に構成した。著者自身も学生の

豊浦市の九州警察短期大学音楽科の教授で、歴任した同校の藤井まこと(56)と同僚大講師の藤井菜穂さん(38)が、テキスト「コードで弾けるピアノ伴奏法」(楽譜出版社)を出版した。動画を添えて指一本から弾ける伴奏の手法を伝授し、音楽の楽しさを伝える。

保育者向け 解説動画で分かりやすく

頃、ピアノで苦労した経験を持つ。伴奏への苦手意識から保育者への夢を諦める学生や、練習時間がとれない苦労する卒業生の声に心を痛めてきた。

小学校教職時代にも実践してきたコード伴奏法を学生に教える中、学生から「ピアノが上手になった気がした」「自分に自信がついた」などの声が届き、手応えを感じた。より多くのピアノ伴奏に悩む人へ手を差し伸べたいと出版を機としていたところ、音楽教科書のシェアが小学校で70%、中学校で80%を超える楽譜出版社とのタッグで出版が実現した。

藤井さんは「コード伴奏なら、歌う手もたんに目を配りながら弾ける。解説動画が付いていると分かりやすい」と語り、著者は「コード伴奏は楽譜の音符を追わないので正確がたぐさである。マスターすれば一生使える財産になる」と話していた。(佐木菜穂)

▼『コードで弾けるピアノ伴奏法』はA4判、32頁、税込が1100円。問い合わせは楽譜出版社販売部、電話03(39557)1177。

著書『コードで弾けるピアノ伴奏法』を出版した藤井まこと(左)と藤井菜穂さん(右)の九州警察短期



世代を超えて環境保全に取り組む

クリーク活用を当たり前前に

「環有明海高校生フォーラム」に
龍谷高校が参加

有明海に面する佐賀、福岡、長崎、熊本の4県の高校生が、未来の環境について考えた「環有明海高校生サミット」が3月

に行われた。高校生たちがオンラインで日ごろの活動を発表し、ディスカッションで有明海の保全などについて語り合った。

同サミットは、



フォーラムで発表する龍谷高校のメンバー5人＝鹿島市千潟交流館

有明海周辺で環境活動を行う高校生同士の情報交換と交流を目的に開催した。第一部で、高校3校と1団体1個人が3月中旬までにオンラインで活動を発表。第2部は3月21日、鹿島市千潟交流館を会場に基調講演やディスカッションを行い、高校生たちが意見を交わし親睦を深めた。

佐賀県からは

フィールドワークでクリークを巡り知識を深めたメンバー＝佐賀市内



SDGsに取り組む龍谷高校の1年生(当時)5人が参加した。龍谷高校のメンバーは昨年からは、環境保全をテーマに活動を開始。同校OBでさがクリークネット代表の川崎康広さんから、佐賀城下に造られたクリークの歴史などを聞き、クリークを活用した活動を進めている。

「佐賀市内にはクリークが張り巡らされているが、今では関心のある人が少ないのが残念。佐賀の魅力だと思ふ」とメンバー代表の古川麗音さん。発表では、水運やお城の守りに使われてきた歴史から、これからの

活動の展望まで紹介した。クリークを水辺の生き物にとっても人間にとっても生きやすい環境にしたいといい、関心を持ってもらうためにカヤックやSUPの体験や、花火を楽しむイベントの開催を予定している。

ディスカッションでは、千潟の新たな活用や生き物について語り合い、刺激を受けたという。古川さんは「クリークを活用する事が当たり前になるような佐賀を目指したい」と意気込みを語る。

※参考 佐賀SDGs 官民連携

田原フォーラムホームページ

男子個人 ① 藤原 隆一

② 武田 信弥 ③ 三善 基 ④ 藤原 隆一

⑤ 北原 隆一 ⑥ 三善 基 ⑦ 藤原 隆一

⑧ 藤原 隆一 ⑨ 三善 基 ⑩ 藤原 隆一

⑪ 藤原 隆一 ⑫ 三善 基 ⑬ 藤原 隆一

⑭ 藤原 隆一 ⑮ 三善 基 ⑯ 藤原 隆一

⑰ 藤原 隆一 ⑱ 三善 基 ⑲ 藤原 隆一

⑳ 藤原 隆一 ㉑ 三善 基 ㉒ 藤原 隆一

㉓ 藤原 隆一 ㉔ 三善 基 ㉕ 藤原 隆一

㉖ 藤原 隆一 ㉗ 三善 基 ㉘ 藤原 隆一

㉙ 藤原 隆一 ㉚ 三善 基 ㉛ 藤原 隆一

㉜ 藤原 隆一 ㉝ 三善 基 ㉞ 藤原 隆一

㉟ 藤原 隆一 ㊱ 三善 基 ㊲ 藤原 隆一

㊳ 藤原 隆一 ㊴ 三善 基 ㊵ 藤原 隆一

㊶ 藤原 隆一 ㊷ 三善 基 ㊸ 藤原 隆一

㊹ 藤原 隆一 ㊺ 三善 基 ㊻ 藤原 隆一

㊼ 藤原 隆一 ㊽ 三善 基 ㊾ 藤原 隆一

㊿ 藤原 隆一

西浦(龍谷) 気迫の2連覇 男子個人

〇…剣道男子個人は、龍谷の西浦尚希が2連覇した。67人の頂点に立った西浦は「プレッシャーに打ち勝って良かった」と静かに喜びをかみしめた。

インターハイ個人2枠を懸けた準決勝で、敬徳の重村将世と対戦。試合時間の4分では決着がつかず、延長戦にもつれ込んだ。「無理せず、粘って勝とう」と持久戦を決意すると、4分の延長を続けること5回。20分を超え、敬徳の末、気迫のこもったドローを奪った。慎重に戦った準決勝とは違い、決勝では「最

初から攻める」と開始1分30秒で相手が飛び込んで来た一勝を逃さず、メンで一本勝ちを収めた。

奈良出身の西浦は「ここで頑張ったら日本一になれる」と進学。最上級生の今年は、主将と大将を任された。日々の反響点などを毎日欠かさず記録し、常に自分自身を向き合ってきた。

翌日の団体戦に向け「自分が試合を締めるつもりで臨む」と気合を入れ直した。(鶴澤弘樹)



剣道男子個人決勝で入賞を奪った龍谷の西浦尚希(左)
龍谷市の龍谷文化センターにて

2025 RELEASE UNDER E.O. 14176



攻防を繰り返す選手たち

龍谷、佐賀商破りV

3年ぶり3回目

第101回全国高校サッカー選手権佐賀大会(県サッカー協会・FBS福岡放送主催)龍谷新聞社が後援の決勝は13日鳥羽市の野間不動産スタジアムで行われ、龍谷が佐賀商を1-0で破り、3年ぶり3回目の優勝を飾った。龍谷は12

月8日から長崎まで行われる全国大会に出場する。前半は両チーム無得点。後半に入り、龍谷は22分、竹内侑将選手(3年)のクロスに鎌倉選手(同)が頭で合わせ先制した。佐賀商は後半だけで7本のシュートを打つも、龍谷の守備に阻まれた。鎌倉選手は「点を取る

とだけ考え、味方を見て中へ飛び込んだ」と振り返った。龍谷の攻撃は鎌倉選手(同)は「全国大会は相手と戦いつつ、両サイドやセンターを生かして勝らな」と語った。一方、敗れた佐賀商の山口選手(同)は「いい形で攻撃できていたが、龍谷の守備に対応された。自分たちの分まで頑張ってる」と話した。

龍谷 1 (1 0) 0 佐賀商

高校サッカー佐賀大会 第101回全国高校サッカー選手権佐賀大会(県サッカー協会・FBS福岡放送主催)龍谷新聞社が後援の決勝は13日鳥羽市の野間不動産スタジアムで行われ、龍谷が佐賀商を1-0で破り、3度目の

龍谷3度目の栄冠



決勝・龍谷・佐賀商 後半12分、龍谷FW鎌倉選手が先制点を決めると、鳥羽市の野間不動産スタジアム。(撮影・山田 一 郎)

エース乗富 値千金ヘッド

龍谷 1 (1 0) 0 佐賀商

通し、鳥羽のFWに先制点を挙げた。鎌倉選手は「点を取る」と語った。龍谷は後半に入り、竹内侑将選手(3年)のクロスに鎌倉選手(同)が頭で合わせ先制した。佐賀商は後半だけで7本のシュートを打つも、龍谷の守備に阻まれた。鎌倉選手は「点を取る

とだけ考え、味方を見て中へ飛び込んだ」と振り返った。龍谷の攻撃は鎌倉選手(同)は「全国大会は相手と戦いつつ、両サイドやセンターを生かして勝らな」と語った。一方、敗れた佐賀商の山口選手(同)は「いい形で攻撃できていたが、龍谷の守備に対応された。自分たちの分まで頑張ってる」と話した。



きようの紙面



高校サッカー、龍谷が県代表 12月 第101回全国高校サッカー選手権佐賀大会(県サッカー協会・FBS福岡放送主催)龍谷新聞社が後援の決勝は13日鳥羽市の野間不動産スタジアムで行われ、龍谷が佐賀商を1-0で破り、3度目の優勝を飾った。龍谷は12月28日から東京都などで開かれる全国大会に出場する。

頂点に立った。龍谷は後半12分、左からのクロスを受けた鎌倉選手(同)が頭で合わせ先制した。龍谷は後半に入り、竹内侑将選手(3年)のクロスに鎌倉選手(同)が頭で合わせ先制した。佐賀商は後半だけで7本のシュートを打つも、龍谷の守備に阻まれた。鎌倉選手は「点を取る

エースがしっかりと役割を果たし、全国大会の切符を手にした。龍谷はFW鎌倉選手が後半の先制ヘッドを叩き込んだ。「エースは流れがよくなると思ってる」と語った。龍谷は後半に入り、竹内侑将選手(3年)のクロスに鎌倉選手(同)が頭で合わせ先制した。佐賀商は後半だけで7本のシュートを打つも、龍谷の守備に阻まれた。鎌倉選手は「点を取る

龍谷1-2鹿島学園

3大会ぶりに全国の舞台に臨んだ龍谷はあと一歩届かず、鹿島学園(茨城)に競り負けた。

龍谷は前半4分、シュートのこぼれ球を押し込まれて失点。さらにその4分後、ロングスローから得点を許し、いきなり2点を追いかける展開となった。右サイドを起点に徐々にペースをつかんだ龍谷は20分、MF竹内やFW中田が立て続けにシュートを打ったがゴールネットを揺らすことはできず、0-2で前半を折り返した。

同点に追いつきたい龍谷は、後半4分に山並がミドルシュートを放つなど積極的にゴールを狙った。11分、MF今野がこぼれ球に反応し1点を返した。その後も攻勢を強め、後半ロスタイムにはFW山田がオーバーヘッドシュートを放ったが、相手GKが好セーブし、力尽きた。

▽1回戦

鹿島学園 2-0 龍谷(茨城) 2-0 1 (佐賀)

▽得点者 鹿島学園 山並 今野

龍谷 出鼻くじかれ涙

後半猛攻も 堅守崩せず



1回戦、龍谷1鹿島学園(茨城) 後半11分、龍谷のMF今野友聖(奥)がこぼれ球に反応し1-2とする。東京都の駒沢陸上競技場(撮影・西浦博也)

後半の怒濤(とどろ)の攻撃も及ばなかった。龍谷は鹿島学園(茨城)に惜敗。試合中盤以降、持ち味のサイドを起点としたサッカーが機能したが、「あと1点が遠かった」と主将の今野友聖は声を落とした。

前半の4分と8分に立て続けに失点。出鼻をくじかれ、選手たちに焦りが広がった。それでもハーフタイムに太田原監督から「やってきたことを信じて送り出され、息を吹き返した。中盤のMF山並仁貴と右ウイングバックの今野の連携で右サイドから好機を演出した。後半11分、今野が自ら上げたクロスのこぼれ球を蹴り込んだ。今野は「あまり覚えていない。目の前にボールが来たので、振り抜いた」と振り返った。

焦点

この得点で勢いに乗り、波状攻撃を仕掛けたが相手の堅い守備に阻まれた。試合終了間際には、途中出場したFW山田龍之介がオーバーヘッドシュートを放ったが、GKにはじかれた。結果が出せない時期もあり、この試合に懸けていた山田は目を真っ赤にし、悔しさをにじませた。

選手たち自身が考える主体性のあるサッカーを志向する龍谷イレブン。CKでは選手たちが輪をつくって回り、キッカーが蹴る直前に散らばってマークを惑わす「トルメンタ」で相手守備陣を揺さぶった。大会を前に選手たちがアイデアを出し合って実行を決めた戦法だった。

太田監督は「勝たないと意味はないが、手応えはあった」と、今のサッカーをさらに進化させるつもりだ。山田は「この結果を踏まえ、練習に本気で取り組んでほしい」と後輩たちのさらなる飛躍を願った。(中村健人)

鹿島学園、W杯代表のOBから刺激

〇…鹿島学園は前半8分で2点を先行して逃げ切った。後半11分に1点を返されたものの、その後の猛攻は耐えた。ワールドカップ(W杯)準々決勝大会に出場したOBの上田に刺激を受けている。高校時代の上田と同じ背番号10で、先制点を決めたFW林は「同じグラウンドで練習した選手が世界の舞台で活躍している。自分たちも目指さないと」と向上心を示した。

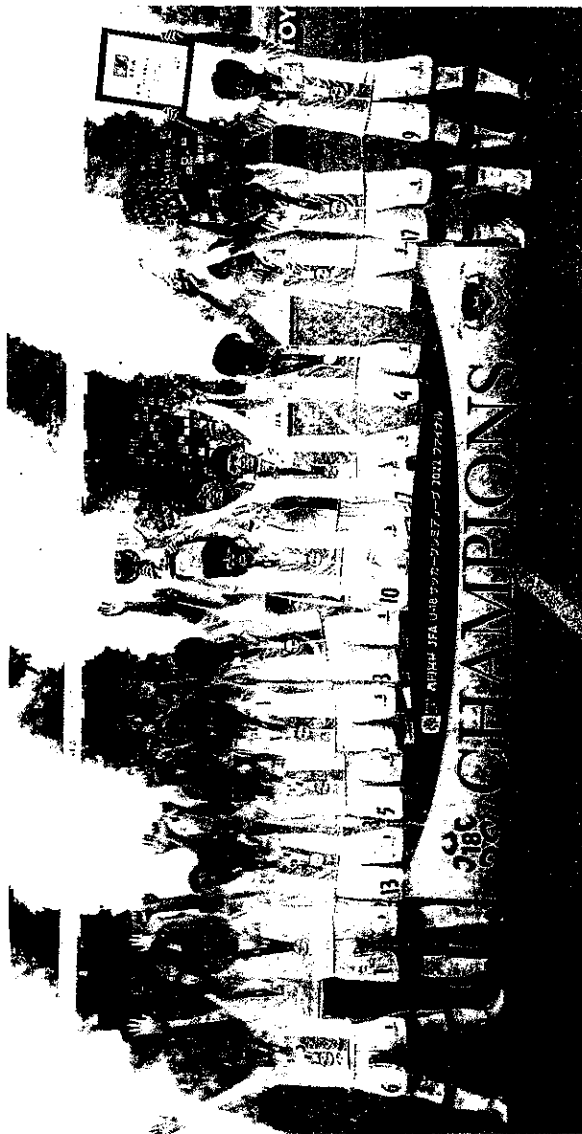
逃げ切られたが手応え

龍谷・太田監督の話 2失点した後に落ちた展開になり、うちのペースにならなかったので点を決められればと思ったが、逃げ切られた。勝たないと意味がないが、僕の中では手応えがあった。

佐賀新聞

2022年（令和4年）

12月13日 火曜日



プレミアリーグファイナルで初の栄冠に輝きトロフィーを掲げて喜ぶサガン鳥栖U-18の選手たち＝東京都の国立競技場

サガンU-18 悲願の初V 高校世代「最強」プレミア王者に

サッカーの高校世代「最強」を懸けた「高田喜村」FAU-18プレミアリーグファイナルが11日、東京都の国立競技場で行われ、西地区王者のサガン鳥栖U-18が東地区を制した川崎フロンターレU-18に3-2で競り勝ち、リーグ参入3年目で初の頂点に立った。U-18世代では、2020年にクラエース選手権を制して以来の快挙となった。

▶10面に関連記事

前半終了直前に同点とした鳥栖は、後半に入るとペースをつかんだ。16分に大里豊馬のゴールで勝ち越すと、2分後に榎井大智がドリブル突破から追加点を挙げた。その後1点を返されたが、悲願の初優勝に輝いた。

プレミアリーグは、リーグのユースチームなど24チームが出場。東西両地区の優勝チームがファイナルに進出する。鳥栖はリーグ最終節で西地区1位を勝ち取り、国立への切符をつかんでいた。

（鶴澤弘樹）

※ サガン鳥栖U-18の選手は、全員が龍谷高等学校の生徒です。

news

ニュース

福井太智選手 ドイツの世界トップクラブへ

佐賀・龍谷高3年生 / Jリーグ・サガン鳥栖所属

サッカーJ1のサガン鳥栖(佐賀県鳥栖市)に所属していた宗門校・龍谷高校(佐賀市)の3年生・福井太智選手がこのほど、ドイツリーグ1部の名門、FCバイエルン・ミュンヘンに移籍することになった。「宗門校の生徒が世界の舞台へ」と同校から喜びの声が上がっている。また、福井選手の同級生でサガン鳥栖アカデミー・U-18(18歳以下)の4選手が鳥栖とプロ契約を結び、同校は歓喜の声に包まれている。

(写真はいずれも©SAGAN DREAMS CO.,LTD.)

龍谷高校は2018年から鳥栖とユース年代の選手育成に關する協定を結んでおり、入学金の原則免除や選手が公式戦に出場する場合は出席扱いにして補習を行うなどのサポート体制を整備。今年度は同U-18に所属する1年生から8年生38人全員が同校に在学し、チームの寮で集団生活を送りながら学校に通っている。

この中、U-18のキャプテンでチームの司令塔でもあり、2年生からJ1のリーグ戦にも出場している福井さんが、今月からドイツ・ブンデスリーガ1部のFCバイエルン・ミュンヘンに移籍することになった。日本の18歳が世界的強豪のユニフォームに袖を置するというビッグニュースは、多くのサッカーファンから注目を集めている。福井さんは「サッカーを楽しんで、上手くなるため、自分の夢をかなえるために、いろんなことに挑戦したい。将来は日本を背負って戦える選手になりたい」と旅立ちを前にコメントを寄せている。

3年生4人同時に サガン鳥栖に入団

また、2028年シーズンから新たにプロ契約を結び、鳥栖のトップ

チームに加入することになったのが大里皇馬さん、竹内諒太郎さん、坂井駿也さん、植原慶輝さんの4人。年代別の日本代表に15歳以下から選ばれている坂井さんは「これからが勝負。1日1日を無駄にせず、どんな環境でも頑張っていきたい」。小学5年から鳥栖のアカデミーで技術や体力を磨き、昨年はアジアカップ予選を戦う19歳以下の代表チームにも招集された植原さんは「高校3年間ずっとプレーしてきた仲間が一緒。これまで同様、よきライバルとして、お互い手を差し伸べ、いいところは吸収し合い、共に成長したい」と意気込み。

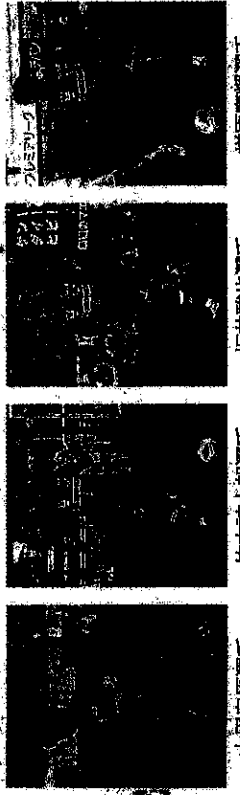
サガン鳥栖U-18は2022年シーズン、Jリーグのユースと高校部活動の強豪チームで争

1月からドイツの強豪FCバイエルン・ミュンヘンに移籍した福井太智選手



う最高峰のリーグ「高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグ」西地区で初優勝、12月の「フアイナル」でも勝利して日本一になった。こうした選手とは別に、同校にはサッカー一般があり、今冬の全国高校選手権に佐賀県代表で出場。同部の中津海周慈さん(3年、熊本県長洲町・立徳寺族)は「サガンの選手たちは全国でもトップレベル。お互いに刺激し合いながら学校生活を共に過ごしてきた」と同級生たちの活躍をたたえる。

同校の吉松幸宏校長は、プロの舞台、世界の高みに挑む生徒たちに、「1つの学校から1年に5人ものプロサッカー選手が誕生するのは珍しいことだと思う。ワールドカップに出場するような選手に育てほしい」と期待を寄せている。

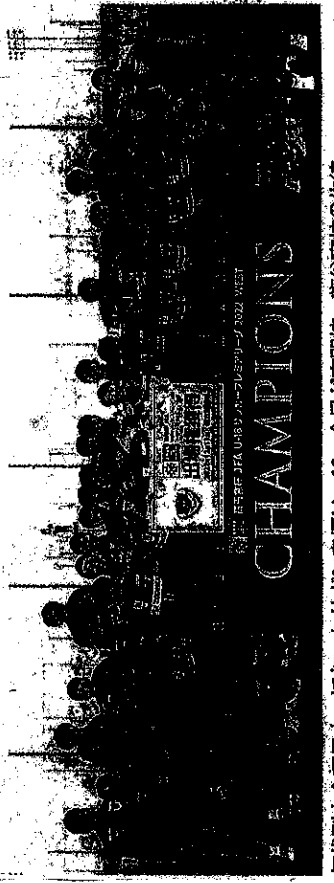


植原慶輝選手

坂井駿也選手

竹内諒太郎選手

大里皇馬選手



年代別大会で日本一になったサガン鳥栖U-18。全員が宗門校・龍谷高校の生徒

九州大会へ7団体推薦 県吹奏楽大会

小学A部門 佐賀大教育学部付属
 中学A部門 城北 成章
 高校A部門 龍谷 佐賀学園A
 大学A部門 佐賀大学吹奏楽団
 職場一般A部門 佐賀市民吹奏楽団

第63回県吹奏楽大会(県吹奏楽連盟、朝日新聞社など主催)が22日、25日、佐賀市の市文化会館で開催された。約80の団体が参加し、7団体が県代表に推薦された。県代表は8月に開催される九州吹奏楽コンクール(九州大会)に出場する。

各部門で代表に推薦されたのは、小学A部門が佐賀大教育学部付属小学校、中学A部門が佐賀市立城北中学校と同市立成章中学校、高校A部門が龍谷高校と佐賀学園高校A。大学A部門が佐賀大学吹奏楽団、職場

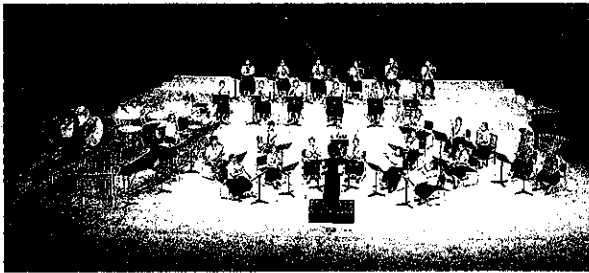
一般A部門が佐賀市民吹奏楽団。

九州大会は、小学校(8月19日)、中学校(20日)、高校(21日)の各部門が熊本市の熊本県立劇場で、大学(27日)、職場一般(28日)の各部門が北九州市の北九州ソレイユホールで開催される。(村上英樹)

県代表以外の成績は次の通り。



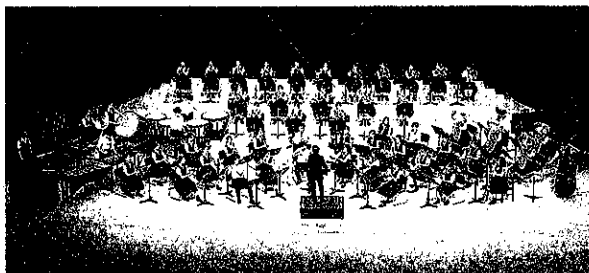
佐賀大教育学部付属小学校の演奏



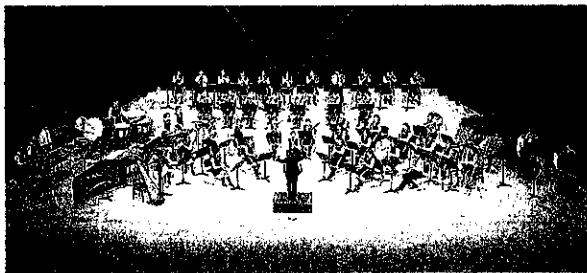
佐賀市城北中学校の演奏



佐賀市立成章中学校の演奏



佐賀学園高校Aの演奏



龍谷高校の演奏

【銅賞】香楠、中原、北茂安、啓成、嬉野、西有田、千代田、北方、浜玉、鳥栖西、小城

■高校A部門(22日)

【金賞】鳥栖商、佐賀北A、佐賀商、佐賀西、神埼

【銀賞】佐賀清和、三養基、小城、武雄、鹿島、鳥栖、伊万

里

【銅賞】弘学館中学・高校、唐津東、早稲田佐賀中学・高校、有田工、唐津西

■職場一般A部門(24日)

【金賞】みさき吹奏楽団、嬉野市民吹奏楽団

■中学B部門(25日)

【金賞】唐津第一、三根、大和、三田川、恩斉、上峰、神埼、有明中・白石中

【銀賞】山内、芙蓉、大浦、有田、大町ひじり学園、鳥栖、鹿島東部

【銅賞】西唐津、鏡、唐津第五、東原岸倉中央校、佐志、東脊振、玄海みらい学園

■高校B部門(同日)

【金賞】佐賀学園B、佐賀北

【銀賞】多久、佐賀女子、唐津商

県吹奏楽大会の写真は、いずれも佐賀市文化会館、大阪フोटサービズ提供

県内
佐賀市

第48回佐賀県吹奏楽アンサンブルコンテスト(県学校吹奏楽連盟など主催)が25日、佐賀市文化会館で開かれた。小学校から職場一般まで54団体が出場し、鹿島西部中など7団体が九州大会へ駒を進めた。

クラリネット四重奏や打楽器三重奏など団体ごとに多彩な編成で、楽器の魅力が際立つ演奏を披露し、会



佐賀県吹奏楽アンサンブルコンテストで、演奏を披露する出場者(佐賀市文化会館)

吹奏楽アンサンブルコンテスト 7団体が九州大会へ

場からは大きな拍手が送られていた。県学校吹奏楽連盟の西牟田恭事務局長は「観客に入場制限をかけず、表彰式も会場で開くのは3年ぶり。出場者も演奏に一層気合いが入っただろう」と話した。

九州大会は来年2月、那覇市の那覇文化芸術劇場は一とで開かれる。佐賀県勢は、昨年まで6年連続で全国大会出場を果たしている。(花木美美)

九州大会の佐賀県代表は次の通り。

小学校の部 佐賀大附属小▷中学校の部 鹿島西部中、成章中、思斉中▷高校の部 龍谷高、佐賀学園高▷職場一般の部 Blaze Symphonic Brass

自転車 ヘルメット着用を

自転車の安全な利用を呼びかける。龍谷高(佐賀市)の自転車競技部の部員と佐賀北署の警官らが26日、佐賀市のイオンモール佐賀大和でキャンペーンを行った。秋の交通安全県民運動の一環で、ヘルメットの着用などを促すチラシや、自転車の反射材を配布した。

道交法の一部改正で今後、全ての自転車利用者に対してヘルメットの着用が義務となる。同校は本年度の自転車マナーアップキャンペーンになっていて、自転車競技部の部員6人が、自転車販売店にチラシを掲示するなどして自転車利用時のルールへの順守とマナーの向上を呼びかけた。

龍谷高生交通安全運動に「役



自転車の安全な利用を呼びかけるチラシを配布する。龍谷高自転車競技部の部員と佐賀市のイオンモール佐賀大和。

同部の部長の久尾研司さん(16)は「自転車の練習中にヘルメットは着用しない方が多かった。ヘルメットの大切さを実感できたので、多くの方に着用してもらいたい」と話した。

(佐賀県報道部 樋口純乃)

障害の有無超えてサッカーを

九州の輪、龍谷高生と試合も

【佐賀市】九州地区知の障が、障がいのない人と一緒にサッカーをプレーする「障がいのない人と一緒にサッカーをプレーする」が、障がいのない人と一緒にサッカーをプレーする。

障がいのない人と一緒にサッカーをプレーする。障がいのない人と一緒にサッカーをプレーする。障がいのない人と一緒にサッカーをプレーする。

障がいのない人と一緒にサッカーをプレーする。障がいのない人と一緒にサッカーをプレーする。障がいのない人と一緒にサッカーをプレーする。

障がいのない人と一緒にサッカーをプレーする。障がいのない人と一緒にサッカーをプレーする。障がいのない人と一緒にサッカーをプレーする。

障がいのない人と一緒にサッカーをプレーする。障がいのない人と一緒にサッカーをプレーする。障がいのない人と一緒にサッカーをプレーする。



障がいのない人と一緒にサッカーをプレーする。

障がいのない人と一緒にサッカーをプレーする。障がいのない人と一緒にサッカーをプレーする。障がいのない人と一緒にサッカーをプレーする。

「アライ」周知、テナントを活用

龍谷中 性的被害者に理解を

【佐賀市】

佐賀市の龍谷中（龍谷女子大学附属）は、LGBTQ+（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー）の周知を目的として、同校生徒でテナントを活用した取り組みを進めている。27日（木曜日）は、同校生徒と関係者ら約100人が、学校で「アライ」のイラストを制作した。



SNS発信へ壁にイラスト

龍谷中では、性的被害者に対する理解を深めるための取り組みとして、SNS（ソーシャルメディア）への発信に壁にイラストを活用している。生徒らは、学校で制作したイラストをSNSに発信し、社会的な理解を促している。また、学校では、性的被害者に対する支援体制を整えている。生徒らは、学校で制作したイラストをSNSに発信し、社会的な理解を促している。また、学校では、性的被害者に対する支援体制を整えている。

サガンスギ植林体験

佐賀・龍谷中生 林業の大切さ学ぶ

佐賀市水ヶ江の龍谷中の1、2年生6人が、県が開発した「サガンスギ」の苗木55本を同市富士町の市有林に植えた。

同中の徳森千鶴教諭によると、生徒たちは科学部の活動や職場体験として植林



サガンスギの苗木を植える龍谷中の生徒たち

を重視。25日、市森林整備課の職員らと山に入り、林業を守る大切さと難しさなどについて学んだ後、伐採後の開けた斜面に1本ずつ植えていった。

職場体験で選んだ2年の吉田真悠子さん(13)は、普通のスギより20年も早く商品になることを知り、「自分の手で植えてみたい」と参加。地面に穴を開ける作業員の扱いに初めは戸惑っていたが、しばらくするとコツをつかんでいた。

同中はSDGs(持続可能な開発目標)活動に取り組んでおり、推進マネジャーでもある徳森教諭は「今日の活動を通じて新しいことを知り、行動につなげてほしい」と期待していた。

感謝の気持ち 絵手紙に 龍谷中で教室、生徒ら色紙制作



感謝の気持ちを込めて絵手紙を制作する生徒たち＝佐賀市の龍谷中

佐賀市 佐賀市の龍谷中で28日、生徒約50人がお世話になった人や身の回りの物への感謝の気持ちを込めた絵手紙の色紙制作に取り組んだ。

講師の佐賀ユトモア協会漫画部会(佐賀市)の茶後朗会長は筆の使い方や全体の構図を指導し、絵がはみ出しても構わないので、色紙いっぱいには大胆に描いて「字は太く、色は濃く。力強く描くことで思いが伝わる」とアドバイスした。生徒たちは祖父母や向

親、教師の先生や臨時などを題材に、真剣な面持ちで筆を走らせた。

家族を描いた2年の川内丸太一さんは「家書を送り迎えをしにくれる両親、困ったときに助けくれる師への感謝を表頭し、善通が訪れるように虹を描いた」と話した。

絵手紙教室は、佐賀真まなび課が2018年から取り組む芸術文化プログラムの一環で実施された。

(辻真美)

